



極秘

千八百九十五年ノ經過及ヒ千八百九十六年
ノ設計ニ關スル露國陸軍大臣ノ奏聞書寫

第九号



114
A 4338

大正十一年四月贈



臣謹テ昨千八百九十五年ニ於ケル軍事行政ノ經過概要及近キ將來
ノ施設計畫ヲ奏上ス、
昨年ノ諸種重務中特ニ主ナル者ハ千八百九十四年十月廿三日勅裁
ニ係レル千八百九十四乃至九十八年ノ五年間ニ於テ逐次成就スヘ
キ團隊編制計畫及砲兵増加特別計畫ニシテ該計畫ハ預定順序ヲ逐
ヒ一モ變更スルコトナク實行セリ而シテ之レニ亞テ主要ナルハ携帶兵
器改良事業ニシテ該事業ハ著シク進捗シ明年首ニ及ヘハ新銃計二
百萬挺并ニ新銃供給ノ第一期ニ屬スル彈藥ヲ準備スルヲ得ヘシ又
西境ノ諸要塞ハ其要費ノ支出ニヨリ將ニ完備セラレントス而テ此
等諸業務ハ尙ホ本奏聞中ノ各章ニ詳説セリ、
然ルニ極東ノ政變ハ前記預定計畫ノ實行以外ニ於テ別ニ非常處分
ヲ施スコトヲ要セリ
日清戰爭ハ大平洋沿岸諸國ノ政況ヲ根本的ニ變化シ去リ明ニ日本

軍ノ強勢ヲ現示シ其結果トシテ從來重要視セサル我極東領土ノ兵備ニ痛ク注意ヲ喚起セシム且此極東領土ハ先帝ノ創設ヲ以テ陸下ノ直接統督下ニアル西伯里大鐵道ノ完成スルニ從テ益々其價值ヲ増殖スル者ナリ

過去十五年間ニ於ケル軍事施設ハ其費額ニ制限セラレ其全般ノ企望ヲ完實スルニ足ラス故ニ我カ國家防衛上最モ緊急ナル歐露西隣ニ對スル軍兵ノ組織及其戰闘準備ニ全力ヲ盡シ我カ亞細亞ノ邊境特ニ千八百九十四年ニ設置セラレタル沿黑龍軍管ニ於ケル軍備ノ如キハ常ニ顧慮ト算書ヲ欠カサルモ尙ホ計費ニ制セラレ充分ノ施設ヲナスコトヲ得サリキ

昨春大平洋沿岸ノ政變紛然トシテ脅嚇シ來ルニ當リ沿黑龍軍管ノ兵力ハ該問題ヲ決行スルニ不充分ナリキ是ニ於テ歐露及「フムスク」軍等ヨリ步兵二大隊、砲兵六中隊及諸種ノ豫備材料ヲ増遣シ次テ四

月十二日ノ勅令ヲ以テ沿黑龍軍管ノ動員初日ハ四月二十日タルヘキコトヲ示命セラレ然レモ干戈ヲ見ルニ至ラスシテ事變ヲ終結シ全五月九日勅令ヲ以テ復員ヲ命セラレ之レニ依リ該軍管ノ戰闘準備ノ増加ニ要スル經費ハ定額ノ外、更ニ千九十五萬五千留ヲ費セリ實ニ昨年ノ出來事ハ大平洋沿岸ニ於ケル我カ外交政略ニ新針路ヲ媒介シ從テ沿黑龍軍管及其直接后援ニ立ッヘキニ西伯里軍管ノ兵備擴張ノ必要ヲ生セリ是ニ於テ昨年十二月三十日ノ勅令ヲ以テ漸次以上三軍管ノ防備擴張及其改善ニ企圖センカ爲メ千八百九十六乃至九百年ノ五ヶ年間ニ於テ三千萬留ノ支出ヲ確定セラレ即チ之レニ依リ本年度ニ四百萬留、九十七及九十八年度ニ各々七百萬留、九十九及九百年度ニ各六百萬留ヲ支出ス此外、昨年ノ臨時支出ノ殘額三百萬留モ亦此計畫ニ充テラル、者トス

右ノ計畫ニ依リ千九百年ニ至レハ我西伯里三軍管ノ防備ハ大ニ鞏

固ノ姿勢ヲ呈シ其兵力ハ増張シテ二倍ニ至ル者トス然レモ此五年
間以前ニ在テ日清兩國ニ於ケル新政畧ノ操縦及其兵力ノ増擴ハ更
ニ吾人ヲシテ防備ノ伸張ヲ要セシムルヤ否ハ豫メ測知セサル處ナ
リ
陸軍定額金ハ先帝登極ノ初ニ當リ國家經濟ノ蘇復ヲ得セシメンカ
爲メ著シク削減セラレ爾后、歐州諸國ノ軍備擴張ト我經濟機能ノ興
復トニ因リ千八百八十九年來漸次定額金ヲ増加シ本年ノ如キハ實
ニ二億六千萬留(兵器改良及后裏海州鐵道布設費ヲ除キ)ニ達ス此定
額ハ一見固ヨリ巨鴻ノ資財タルノ觀アレモ敢テ國家經濟ノ許容ス
ル範圍ヲ脱出セス然レモ尙ホ且ツ此巨資ヲ以テ軍ノ諸要求ヲ充足
シ得サルハ臣ノ敢テ言明スルニ踟躇セサル處ナリ
千八百八十年時代ニ於陸軍定額金ハ非常ニ削減セラレ止ヲ得ス軍
ノ編組ヲ節約スルニ至レリ爾后漸次増額アリシモ悉ク歐露軍隊ノ

擴張及其戰闘準備ニ支出セラレ然レモ此施設モ亦一時ニ貫行スル
ノ餘裕ナク數年間ニ配定シテ實行スルニ過キス、又臨時費ノ如キハ
一時ニ其費消全額ヲ補足セラレサルヲ以テ經常費中ノ未決定ニ屬
スル剩餘等ヲ流用スルノ姿勢ナリキ故ニ堡砦築設費ノ如キ緊急措
クヘカラサル者モ亦從テ一時ニ支出スルヲ得ス其他刻下不必要ナ
ル施設ノ如キハ全ク着手スルニ至ラザリキ斯ノ如クシテ東亞細亞
領土ノ兵備ハ昨年ノ危機切迫シ來ル迄微毫モ施設スルヲ得ザリ
シ加之ナラス攻守城砲及彈種ノ改良モ亦甚タ遲緩シ唯馬爾幹半島
ノ紛紜ハ其一部ノ改良ヲ促セルノミ又現時軍ノ兵力ノ夥多ナルト
戰時給養ノ困難ナルヲ預測シテ準備スヘキ鐘詰ノ必要數額ハ未タ
全備セス而シテ吾人ハ尙ホ未タ戰時ニ當リ著シク切要ヲ感ズヘキ野
戰鐵道材料ヲ有セス漸ク本年ヲ以テ其材料制式ノ撰擇ノ爲メ實地
研究ヲナサントスルノミ

六
斯ノ如クシテ戰鬪力ニ直接ノ關係アル我カ軍事諸施設ハ尙ホ未タ
充實スルニ至ラス然レモ我國ニ比シ更ニ莫大ノ軍資ヲ費セル西隣
諸國ハ近世ノ技術ヲ利用シ既ニ其施設ヲ整備シアリ又戰鬪ニ直接
ノ關係ヲ有セサルヲ以テ著シク人意ヲ牽カサル諸事件ハ特ニ逆境
ニ沈メルノ觀アリ何ントナレハ其改善ハ逐年遷延シ偶々改修アル
モ一局部ノ纏縫ニ留リ全部ノ企望ヲ充スニ至ラサルナリ即チ近世
社會生活ノ程度ニ準テ増額ヲ要スヘキ將校下士卒ノ給養ノ如キハ
其一ナリ先帝ハ夙ニ將校及下士卒ノ給養ヲ改善スルノ意アリシモ
其資源ヲ見出サ、ルヲ以テ全部改正ヲ施スニ至ラサリキ實ニ將校
俸給ノ最終増加ハ今ヨリ三十七年前即チ千八百五十九年ニシテ其
下士卒ノ給料其他一般ノ食料、宅料、日當、調味料、馬飼料、勞作料等ノ最
終規定ハ今世期ノ三十年代ニシテ悉ク其當時ノ生活及物價ヲ標準
トシテ規定スル者ニシテ其后四、五十年ヲ經過セル今日ニ適用スル

七
ノ不條理ナルハ火ヲ觀ルヨリモ明ナリトス露國經濟上ノ發達ハ營
ニ生活物價ヲシテ高直ナラシムルノミナラス併テ上下一般ノ生計
程度ヲ優尙ニシ製造者、商業家ハ全時ニ其業務ヲ伸暢シ要價ヲ倍求
シテ新生活ニ適應スルニ至レリ斯ノ如キ場合ニ於テ官職上生産ヲ
營ム可ラサル社會ハ比較上著シク困弊ト卑下トヲ感セリ先帝在世
ノ時代ニ當リ軍人生活ノ優尙ヲ計レルコ固ヨリ一二ニ止マラスト
雖モ其補修ハ經費ニ制限セラレ小局部ノ者ニ過サリキ、陛下ハ既ニ
前諸件ノ中ノ一即チ下士卒ノ調味料ノ増加ヲ成可ク速ニ企圖セン
コヲ勅命セラル尙ホ願クハ軍人一般ノ狀體ニ付更ニ聖鑑ヲ垂レラ
レンコヲ即チ軍ニ良好ノ營舎ヲ給シ將校ニ官舎ヲ與ヘ且ツ軍隊衛
生ノ諸便宜ヲ成形シテ教育訓練ニ最大能力ヲ發揚セシムルハ實ニ
當今ノ急務トス尙ホ又一一般將校ノ給養ヲ豐全ニスルト其恩給ヲ優
尙ニシテ役務ヲ終リ既ニ實務ニ堪ヘサル者ヲシテ徒ニ留任ニ眷々

タラシメサルト軍人兒子ノ教育ハ刻下措ク可ラサルノ必要トス
千八百八十四年經過ニ關スル奏聞中諸軍管司令官ノ希望即チ幼年
學校擴張ノ急務ナルヲ申請シ聖鑑ヲ忝セリ獨リ邊境駐在軍人ノ
子弟ノミナラス歐露内地ノ僻陬ニ於テモ亦將校若シ其子弟ヲ幼年
學校ニ入學セシメサルハ他ニ教育ノ途ナキニ苦ム故ニ之ヲ醫ス
ルノ法ハ幼年學校ノ擴張ヲ計リ洽ク將校子弟ノ入學ヲ得セシムル
ニ若クハナシ即チ之レニ依リ一ハ以テ士官學校入學志望者ヲ豊富
ナラシメ二ハ以テ我全軍ニ益々適任秀才ノ良將校ヲ給スルノ泉源
ヲ培養セシムルヲ得ヘシ熱心ニシテ勇壯ナル陛下ノ全軍ハ如何ナ
ル境遇ニ在ルモ恒ニ其義務ヲ履行シ献身ノ誠ヲ致スヲ忘レサル
ト同時ニ我カ國家經濟ノ改善スルニ從テ陛下ハ陛下及本國ノ防護
者ニ向テ必要ナル外形上ノ助力ヲ與ラレ可キヲ確信スル者ナリ

第一章 兵數、編制及補充

○正規軍ノ兵數 千八百九十五年未ニ於ケル平時編制ノ正規軍ノ
兵數左ノ如シ

將校 三萬六千三十六名
下士卒 九十一萬八千八百三十九名
馬匹 十萬七千四百二十二頭

之レヲ前年ノ員數ニ比スレハ將校八百二十六名下士卒二萬五千
三百九十一名、馬匹七千九百八頭ヲ増加ス、是レ千八百九十三年ノ
奏聞ニ係ル千八百九十四年乃至九十八年ニ繼續實行スヘキ増兵
計畫ニ基因スル者ニシテ其詳細ハ既ニ昨年ノ奏聞ニ盡セリ

○團隊ノ編制 前記計畫ニ基ツキ昨年中ニ實施セル者左ノ如シ
步兵諸隊ノ増員セラル、者ハ即チ「キーエフ」「ウイリナ」兩軍管下ニ配
置セラル、野戰步兵聯隊、豫備部隊タルヘキ步兵ノ野戰隊ニ改編セ

ラル、者、要塞守備タル歩兵數隊「フィンランド」狙撃旅團、並ニ二大隊
編成ノ豫備歩兵聯隊ニ擴張セラルヘキ彼德堡軍管ノ豫備歩兵四大
隊（近衛豫備歩兵大隊ヲ含ム）トス而シテ豫備歩兵ノ第二次編制ヲ完全
ナラシメンガ爲メ豫備大隊ニ將校計百七十六名ヲ増補ス（千八百九
十四及ヒ九十五ノ兩年ニ於テ豫備歩兵大隊ニ將校ノ増補セラル、
ト計三百四十名トス尙ホ該將校ノ不足數ハ五百六十五名トス）
騎兵諸隊ニ在テハ龍騎兵二聯隊ヨリ成ル第一獨立騎兵旅團ヲ編組
セラレ且ツ新ニ第十七補充幹部隊ヲ設置ス該幹部隊ト既設第十六
補充幹部隊トヲ以テ第八騎兵、補充幹部旅團ヲ編成セラル」
砲兵諸隊ニ在テハ輕砲兵十八ヶ中隊并ニ臼砲二ヶ中隊ヨリ成ル臼
砲聯隊二ヶヲ新設シ且ツ歐露ノ全野戰砲兵及全國ノ騎砲兵ニハ新
ニ大隊ノ團結ヲ設ク又要塞砲兵隊ノ増員ヲ續行ス而シテ砲兵増加ニ
關スル件ハ第八章ニ詳ナリ

日清戰爭ノ余勢ハ引テ我極東ノ防備ニ影響シ是ニ於テカ本報告年
度ニ在テハ非常處分ヲ以テ更ニ豫設増兵計畫ヲ補脩スルノ止ヲ得
サルヲ致セリ
當時沿黒龍軍管ノ兵力ハ實ニ歩兵三十一大隊半ト五中隊、騎兵三十
五中隊、及砲七十四門ヲ算ス而シテ此兵力ノ寡弱ナルヲ以テ増援トシ
テ歐露ヨリ輕砲二中隊、臼砲二中隊、要塞砲兵一隊、工兵一中隊、電信一
中隊、「ラムスク」軍管ヨリ線列歩兵二大隊、砲兵二中隊ヲ送遣セリ之レ
ト同時ニ后具加爾第二騎兵聯隊ヲ四中隊ヨリ六中隊ニ擴張セリ
（歐露ヨリ差遣セラレタル砲兵四中隊ノ空位ハ新設隊ヲ以テ補填ス
又二中隊ノミヲ殘置スル西部西伯里砲兵聯隊ハ更ニ砲兵大隊ト改
稱セラル）
尙ホ又沿黒龍軍管ノ動員ニ資スルカ爲メ多クノ將校、下士卒、衛生部
員、諸種ノ豫備品材料并ニ新設第一「ウスリ」鐵道大隊ヲ送發セリ

既ニシテ交戦ノ機會ノ發生セサルヲ明瞭ニシ次テ沿黑龍軍管ハ復員ヲナス

千八百九十五年ヲ云フ

今ヤ東洋ノ形勢俄然トシテ轉動スルニ當リ我西伯里諸軍管ノ兵力モ亦從テ増大スルノ必要アリ該増加計畫案ハ既ニ昨七月二十九日ヲ以テ裁可ヲ仰ク者ニシテ之レニ依リ千八百九十六年乃至千九百年間ニ於テ逐次施設スヘキ兵備擴張ハ次ノ如シ
沿黑龍軍管區ニ於テハ

- 一、狙撃十大隊ヲ二大隊編制ノ十聯隊ニ擴織スルコト
- 二、新ニ豫備歩兵大隊一個ヲ増設シ線列一大隊ヲ基本トシテ浦鹽斯德要塞歩兵五大隊ヲ擴織スルコト
- 三、騎兵二中隊ヨリ成ル沿海州騎兵大隊ヲ六中隊編成ノ龍騎兵聯隊ニ后具加爾歩兵二大隊(歸休四大隊モ同様)ヲ六中隊編成ノ哈薩克聯隊ニ改編スルコト

隊名

四、要塞砲兵二中隊ト一部隊、出撃砲兵一中隊、后具加爾歸休砲兵一中隊ヲ新設シ且ツ二ヶノ山砲半中隊ヲ二中隊ニ擴織スルコト

五、「ボシエツト」灣并ニ黑龍河口防禦トシテ小數編組ノ水雷中隊二個ヲ新設スルコト

以上ノ企圖ヲ實施セハ戰時沿黑龍軍管ノ兵力ハ歩兵四十七大隊ト十中隊騎兵九十中隊、砲百四十門ニ達スヘシ

此外尙ホ浦鹽斯德要塞ノ陸海兩方面ニ堡壘ヲ増設スルコト「ボシエツト」灣ニ築堡スルコト浦鹽斯德及黑龍河口「ニコライスク」ニ備砲ヲ増加スルコト並ニ黑龍江ニ小船隊ヲ設備スルコトヲ決定ス(該船隊ニ供スル汽船一隻ハ昨年既ニ設備セラレ尙ホ二隻ハ近年ノ内ニ増設ス)

「ラムスク」軍管區即チ沿黑龍軍管ノ爲メ主重ナル后援ニ任スル者在テハ

- 一、「バルナウル」地方警備隊ヲ豫備歩兵大隊ニ擴張スルコト但シ該軍

管ノ豫備歩兵大隊ハ増加シテ五大隊ニ至ラシムル者トス
 二、各豫備歩兵大隊ハ動員ニ際シ野戰大隊五、補充大隊一ニ擴織シ
 其野戰大隊ハ出戰ノ諸準備ヲナシ補充大隊ハ地方衛戍ニ任ス
 ル者トス

三、豫備砲兵二中隊ヲ新設シ動員ニ際シ砲兵八中隊ヲ擴織セシム
 ルヲ西部西伯里騎山砲中隊ヲ解隊シ其材料ノ一部ハ土耳其斯
 坦軍管ニ送付スルヲ

「イルクツク」軍管ニ屬スル豫備歩兵二大隊モ全シク動員ニ當リ補充
 大隊ヲ編制セシム
 以上ノ計畫ヲ實行セハ戰時「ラムスク」及「イルクツク」兩軍管ハ野戰軍
 トシテ歩兵三十五大隊、砲兵十中隊ヲ出戰セシムルヲ得ヘシ
 右三軍管ノ増兵計畫ヲ實施センカ爲メ經常費ノ外更ニ三千三百万
 留ヲ千八百九十六乃至千九百年ノ五年間ニ亘リ支出スルヲ決定

セラル而シテ最后ノ千八百九十九及千九百年ニ於テハ各六百万留ヲ
 支出スルノ割合ニシテ計畫成就以後即チ千九百一年ヨリハ之カ爲
 メ毎歲四百万留ノ經費ヲ要スヘシ

西伯里諸軍管ノ團隊及諸司令部ノ擴張ニ連繫シテ土耳其斯坦軍管
 ニモ亦増兵ヲ企圖スヘキ計畫ハ既ニ昨年八月五日ヲ以テ裁可ヲ仰
 ク者ニシテ即チ左ノ如シ

一、線列二十大隊ノ内五大隊ヲ以テ各五中隊編成ノ線列幹ヲ大隊
 ニ充テ而シテ戰時該幹部大隊ハ初期ニ於テ線列二大隊及豫備一
 大隊ヲ成形シ最后ニ於テ線列四大隊及補充一大隊ニ擴織スル
 ヲ

二、殘餘ノ線列十五大隊ノ内一大隊ヲ以テ「ベトロアレキサンドロ
 1」フスキ」ニ獨立駐屯セシメ其他ノ十四大隊ヲ以テ五ヶ旅團
 ヲ編組スルヲ

三、狙撃及線列大隊ニ補充中隊ヲ編制スルノ幹部ヲ有セシメ各旅團ニ於テ連合補充大隊ヲ組成スルコト

四、地方警備隊ノ編組ヲ縮少シ同部隊ヨリ十二乃至七ノ人員ヲ減スルコト

五、地方軍務縣令ニハ爾今線列幹部大隊及地方警備隊ノミヲ隸屬セシメ線列旅團ハ全ク其統轄ヲ脱シ同旅團長ニ師團長全等ノ權限ヲ付シ軍管司令官ニ直屬セシムルコト

六、該軍管居住ノ哈薩克種族ヨリ哈薩克旅團ヲ編組スルコト

以上ノ改革ハ特ニ地方軍務縣令ノ耐ヒ難キ劇務ト重荷トヲ輕減セシメ而シテ此改革ヲ實行センカ爲メ別ニ定額金ヲ増加スルヲ要セス唯戰用必需品ヲ準備センカ爲メ千八百九十七年ニ三十萬留、千九百年ニ四十五萬留、計七十五萬留ヲ要スル者トス

○軍ノ補充

甲、將校、本報年期末ニ於テ團隊附將官ハ計四百三十二名、佐尉官計二萬九千二百三十六名ヲ算ス之ヲ編制表ニ對照セハ將官七名、佐尉官六百五十六名ノ欠員ニシテ之ヲ細別セハ步兵科百三十名、騎兵科十八名、砲兵科三百二十三名、工兵科百八十五名トス、歩騎兵科將校ノ欠員ハ事体敢テ重大ナラス何ントナレハボドフコルシチク准少尉試補ヲ昇任セハ容易ニ其欠位ヲ填補スルヲ得可レハナリ然レモ砲工兵科將校ノ欠員ニ至テハ特科兵學校擴張ヨリ提起スル結果ヲ待ツノ他法ナシトス

動員ニ際シ戰時定員ヲ充足スルノ問題ハ最モ貴重ナル者ニシテ即チ之カ爲メ平時編制ノ者ニ更ニ將校一万九千七百七名ヲ増配スルヲ要ス然ルニ昨年末ニ於ケル豫備將校ノ數ハ八千三百八十四名ニ過キス故ニ戰時將校ノ不足數ハ實ニ莫大ニシテ約一万一千人ノ欠員ヲ見ルヘシ之レカ爲メ陸軍省ハ爾來勉メテ此欠員ヲ補足スルノ手段ヲ取り且ツ漸次平時ニ於ケル將校ノ員數ヲ増加スルコトヲ計レリ

豫備將校ノ増加ハ甚タ緩漫ナルノ觀アリト雖逐年豫備少尉試補ノ教育ヲ適實ナラシメンカ爲メ昨年ヨリ志願兵ニシテ豫備將校ニ任用セラレンコトヲ希望スル者ハ其勤務ノ年限ハ八ヶ月ニ非スシテ一年ニ改正ス而シテ昨年モ亦豫備少尉試補ノ復習ノ爲メ六週間ノ召集ヲ施行シ該召集員中ニハ既ニ一回召集ニ應セシ者ヲ見タリ而シテ該召集ニ關スル報告ハ未タ盡ク受領セサルヲ以テ茲ニ其成績ヲ述フルヲ能ハス

乙、下士兵卒、軍ノ兵力漸次膨脹スルニ隨ヒ徵兵ノ員數モ亦増大シ昨千八百九十五年ニ於ケル全露國(高加索ヲ除キ)ノ徵兵二十七萬五千人、高加索ノ徵兵二千四百人ヲ算セリ然レモ全國民ニ兵役義務ヲ均一ナラシムルノ目的ヨリシテ更ニ高加索ヨリ三百五十名ヲ増募シ此増募員數ヲ全露ノ者ヨリ減募セリ而シテ高加索ノ惣徵兵二千七百五十名ノ内千七百十五名ヲ以テ地方固有ノ軍隊ニ充テ其他千三

十五名ヲ以テ高加索ニ屯在スル正規軍ノ步兵補充ニ供セリ歐露ノ軍隊ニ於ケル徵兵入營ハ昨年十二月中ニ完了シ唯遼遠ノ郡縣即チ「アルハンゲル」「ワローグド」兩縣ノ少數ナル徵兵ハ本年一二月ノ交ヲ以テ入營スルニ至レリ土耳其斯坦軍管ノ軍隊ニ入營スヘキ徵兵ハ本年一月半迄ニ到着(歐露ヨリ該軍管ニ送遣セララル、徵兵ニシテ冬間砂漠ヲ通過シ得サルカ爲メ一時滯留セシ者五百人アリタリ)ス又沿黑龍軍隊ノ軍隊ニ入營スヘキ徵兵即チ歐露ノ諸縣(九千六百三十七名)并ニ西部西伯里ノ「トボリス」縣、「アリモリス」州ヨリ徵募セシ者ハ海上浦鹽斯德ニ向テ輸送シ其航送時期ハ本年二月ヨリ開始ス」昨年ノ奏聞中ニ掲ケタル教育ノ程度及家族ノ關係ヨリスル免役期限ノ減縮案ハ既ニ調査ヲ終ヘ文部及内務ノ議定ヲ促セリ又徵兵ノ体格検査條令ハ既ニ査閲ヲ終リ之レヲ軍事教育會議ノ衛生部ノ決議ニ付セリ本報告年期中ニ於テ次ノ年限間勤務セシ者ヲ豫備役ニ

編入セシム即チ歩兵及乘車砲兵ニ於テハ四年間勤務ノ者其他ノ兵科ニ於テハ五年間勤務ノ者トス而シテ例年ノ如ク野營期末ニ於テ除隊ヲ爲セリ然レモ「フデツサ」軍管ニ於テハ只陸軍編成ノ希望ニ供用センカ爲メ七千五百人ノ除隊ヲ昨年十二月十五日迄ニ延期シ尙ホ又警備護衛ノ諸勤務ニ供用センカ爲メ四千五百人ノ除隊ヲ本年三月三十一日迄延期セリ

昨年中耕耘ニ障ナキ時期ヲ以テ初メテ豫備兵召集點呼ヲ各市村ニ實施シ其召集總員數六十四万人ノ内點呼ニ應セシ者實ニ五十七万八千人即チ百分ノ九十トス故ニ此結果ヲ動員ノ際病氣禁錮等ニヨリ百分ノ十五乃至二十ノ召集不應員ヲ生スル者トスル算定ニ比スレハ甚タ良績ヲ得タル者トス

豫備兵ノ復習ヲ行ハシムカ爲メ歩兵、乘車砲兵、要塞砲兵ノ豫備役員ヲ召集セリ然レモ一年間勤務ノ豫備砲兵ハ召集セザリキ是レ此砲兵

ハ戰時彈藥縱列、若クハ列外兵ニ使用セララル、ヲ以テ復習ノ必要ナケレハナリ又初メテ高加索ノ豫備土民兵ノ復習召集ヲ行ヘリ昨年中國軍ノ訓練ヲ行シカ爲メ例年ノ如ク二階級即チ千八百九十二年及九十四年ノ者ヲ召集スルニ決セリ然レモ國民兵召集ニ供スル屋舎ノ欠乏ト又其一部ノ召集ハ夏時耕耘ノ時期ニ際スルヲ以テ勅裁ヲ經テ千八百九十六年ノ階級即チ既ニ一回召集ニ應セシ者ヲ免除セリ該召集訓練ニ關スル諸報告ニ依レハ各地共ニ其成績適實ナリシ唯「ブレストリト」市ニ於テハ去年ノ火災ニヨリ國民兵ニ營舎ヲ供スル能ハサルヲ以テ止ヲ得ス此訓練ヲ廢止セリ昨年十一月一日ヨリ動員計畫令第十六條ヲ使用ス而シテ第一順次ノ三百二十國民大隊編成ノ計畫ハ地方廳既ニ之レヲ完了シ又國民要塞砲兵二十中隊、同工兵二十中隊モ亦其編成準備ヲ結了ス。馬匹保育者ヨリ組成セントスル國民騎兵八十中隊ノ編成案ハ本年初ニ於テ

規定セラル尙ホ又國民砲兵中隊ノ編成ハ目下砲煩準備中ニ屬シ曩
 キニ其二十中隊分ノ砲煩ヲ準備セシモ之レヲ昨年新設ノ野戰砲兵
 ノ使用ニ供セリ
 諸調査ニ依レハ退職將校ニシテ國民軍隊ノ勤務ニ適スル者ハ計三
 千三百名ヲ算ス而シテ其内百分ノ五ハ現ニ職務ヲ有スルヲ以テ同
 勤務免除ノ必要アリ退職將校使用ニ關スル條令ハ既ニ調査ヲ終レ
 リ
 動員ニ際シ國民諸隊ニ馬匹ノ欠乏ナカラシメンカ爲メ現ニ軍馬徵
 集令ノ審査ニ着手ス該新令ハ關係諸官省ノ議定ヲ經ルヲ要ス而メ
 該新令ハ毎二年ニ馬匹適否ノ檢査ト軍馬保育者取締所ノ改良ヲ希
 望スル者ニシテ之レニ依リ動員ノ際不適不良馬ノ亂雜徵集ヲ避ケ
 速ニ適當ノ馬匹ヲ供用セシムルニアリ

第二章 軍事官衙及司令部

軍事諸機關ノ變更スルコ次ノ如シ

新ニ騎兵總監ヲ置キ該總監ニハ騎兵乘馬監、騎兵補充旅團及將校騎
 兵學校ヲ直屬セシメ全時ニ陸軍省ノ騎兵監察及參謀本部ノ騎兵局
 ヲ廢セラル

第十一(在エカテリノスラヴ)及第十六(在ウワローネジ)地方管區司令
 ヲ廢シ其管轄區ヲ他ノ同司令部ニ分配ス地方管區司令部ノ番號ヲ
 廢シ其司令部處在ノ地名ヲ冠稱セシム又同司令部ノ編成中參謀上
 長官一名ヲ廢シ之レニ代ユルニ監察トシテ上長官一名ヲ置ク

「リ、バ、ワ」港要塞司令部及「セ、グ、ル、ジ」堡壘指揮部ヲ新設ス本奏議ノ最
 初ノ三章ハ參謀本部ノ行務ニ係リ他ハ陸軍省各總務局ノ行務ニ係
 ル者トス

參謀本部ニ隸屬スル諸局部ノ業務中教育會議ノ行務ハ別ニ異ナル
 コナシ又全部陸地測量部ノ業務ニ付テハ千八百九十三年來西伯里

鐵道ニ沿フテ重ニ后具加爾州ノ「ムイリワヤ」及「バクロイワヤ」驛間ヲ
 測量シ尙ホ千八百九十四年中ニ測量セシ地帯ノ北部ニ波及セリ
 軍隊及荷物輸送部ノ事業ハ鐵道網ノ延長スルニ從ヒ益々之ヲ擴張
 シ該部ノ管理ニ屬スル后裏海州鐵道經業ノ昨年ノ景況ハ未タ確明
 セサレモ其豫算純益ハ三十萬六千留ニ上リ本年ノ豫算純益ハ四十
 五萬留ヲ示セリ其「クラスノエラストク」工區ノ線路築造ハ漸次歩ヲ
 進メ建築用ノ爲ニスル列車ノ全路運轉ハ本年四月ヨリ開始シ其竣
 工ハ本年八月ヲ出テサルヘシ又昨年ヨリ「サマルカンド」「カーガン
 ド」「アンジジャン」間ノ線路及「タシケン」支線ノ線路築造ニ從事ス「ア
 ムーダソ」河ノ固定鐵道橋ハ之レヲ實地調査ニ附シ現存ノ臨時橋
 附近ヲ以テ適當ノ位置ト決定シ該固定橋ノ延長ハ千「サーセン」ニシ
 テ計經費四百万留ヲ要スヘシ尙又「メルヴ」ヨリ「ムール」ガヴ「ク
 ーシカ」
 河谷ヲ經テ「アフカニスタン」國境ニ達スル線路調査ヲ命セリ

參謀本部ニ屬スル亞細亞局ノ業務中我亞細亞領土ノ増兵計畫ノ外
 其施設ニ關スル事項左ノ如シ

土耳其斯坦軍管下ニ在テハ「バミュール」事件ニ付英國ト妥協シ共同
 境界劃定委員ヲ組成ス之レカ爲メ本年各營ノ爲メ殘留セル上部「バ
 ミュール」戍兵ハ其三分一ヲ減員ス又千八百九十四年末ニ設置セル
 敕任官「コベコ」氏ノ統率ニ屬スル地租調査會ハ既ニ其査定ヲ終リ不
 日將ニ國議院ノ議決ニ付セラレントス尙又土耳其斯坦ニ新ニ地方
 長ヲ置キウナチヤリニツク地頭ト同等ノ權限ハ並ニ裁判權ヲ附與シ以テ其管下人民
 ノ統治ニ便ナラシメタリ

后裏海州ノ施行ニ關シテ現今新ニ同施政法案ノ調査ニ着手中ナリ
 后裏海鐵道ノ起點タル「クラス」ノウラ「ドス」府ニ施行セラルヘキ
 諸種ノ建築ノ爲メ土地配與令ハ既ニ達告セラル又波爾斯官吏ノ無
 カナルヲ以テ我國境上ニ駐屯スル哈薩克兵及護疆兵ニ特ニ「アラマ

ン「種族追討ノ爲メ國境ヲ超過スルコトヲ認可セラレタリ
 高加索軍事行政下ニ於ケル黒海區(クバン)州内ニ包含ス)ニ獨立ノ政
 治ヲ布キ爾來軍事行政ヲ施サ、ルヘキヤノ問題ヲ生シ目下之レヲ
 勅定ノ特別委員會ノ議ニ付セリ尙ホ「カルススキ」州及舊「バトーム」
 州ニ在ル市外地所ヲ官有地ニ爲スヘキヤノ問題モ亦其關係諸官省
 ト協議ノ上之ヲ高加索軍事行政官ノ議定ニ付セリ
 「ラムスク」軍管ニ於ケル「ナルインスク」堡砦ノ轉地問題ハ否決セラレ
 該堡砦ハ從前ノ位置ニ在テ其戍兵トシテ同地方警備隊並ニ哈薩克
 一中隊ヲ充テ而シテ同哈薩克中隊ノ半部ハ噶什喀爾駐在ノ領事護衛
 ニ任セラレヘク又「トールフアン」ニ新設セラルヘキ領事護衛トシテ
 「ドジャルケント」ヨリ哈薩克半中隊ヲ差遣セリ

第三章 人事、訓練及勤務

臣ハ昨年未ニ於テ諸軍管司令官ノ報告ト併セテ該諸報告ヲ總括セ

ル便覽ト並ニ軍管司令官ノ申報セル其部下高等諸官ノ考科トラ陞
 下ノ聖覽ニ達セリ該報告ニヨレハ諸軍管司令官ハ部下一般下士卒
 ノ忠實、熱心ヲ以テ奉公ノ誠ヲ致スヲ是認シ且ツ諸將校ノ行爲、品格
 ノ卓絶ナルコトヲ稱揚セリ而シテ諸將校ノ智識、學術ハ稍々充全ニシテ
 漸次開達スルノ傾アリ是レ數年來近衛以外ノ諸軍ニ亦正則士官學
 校ノ卒業者タル將校ヲ配當スルニ依ル而シテ刻下不可措ノ急務ハ將
 校勤仕ノ状態ヲ規正シ可力及軍ニ壯年ノ指揮者ヲ與フルニアルヲ
 以テ爾來將校進級年限ノ適實齊一ナランコトヲ勉ムト雖モ經濟上ノ
 制限ト此規定ヲ一齊ニ諸兵科將校ニ決行スルカ爲ニ横ハル諸種ノ
 紛雜アルヲ以テ未タ全ク此考案ヲ達成スルノ途ナシトス
 本報告期內ニ於テ將校進級ヲ改善ナラシムルノ目的ヲ以テ纔カニ
 左ノ數件ヲ決行セリ
 一、隨時補欠進級ノ爲メ故參順序ニ不公平ナカラシメンカ爲メ歩兵

科將校(近衛ヲ除ク)ノ一等大尉若クハ二等大尉ニ進級スル者ハ其年ノ三月十五日ノ順序ヲ以テ故參權ヲ規定ス但シ戰功ニ依リ昇叙セシ者ハ本人ノ便宜上其功績ヲ舉ケシ當月若クハ前紀三月十五日ヲ以テ故參權ヲ定ムル者トス

二、拔擢ヲ以テ中佐ニ進級スヘキ一等大尉ハ狀体ヲ優良ナラシメンカ爲メ一等大尉ノ二十五分一以内ノ員數ハ拔擢進級ヲ得ル者ト規定シ且ツ同時ニ中佐ニ進級スル一等大尉ノ停年ヲ少シク變更ス然レモ斯ノ如キ拔擢ハ必ス其撰擇ニ與ルヘキ技備ヲ有スル者ニ限ル者トス

本年中參謀科將校ノ勤仕ヲ改善シ且ツ同時ニ步兵聯隊長ノ資格ヲ高ムルノ目的ヲ以テ爾來步兵聯隊長ノ欠位四(近衛一、地方軍三)ニ向テ參謀科將校一ヲ任命スルノ割合ヲ變更シテ二ト爲セリ

將校ノ待遇ヲ優渥ナラシムルノ聖慮ヲ以テ陛下ハ特ニ彼德堡府ニ

一時滯留將校ノ宿舍ヲ兼備スル將校集會處建築ノ爲メ國庫ヨリ百三十萬五千留ノ支出ヲ裁可セラレ此經費中ヨリ昨年五萬留ヲ支出シ殘額ハ本明兩年度ニ支出セラレントス而シテ該將校集會所ノ礎石ハ陛下ノ手カラ既ニ敷置セラル、處ナリ

軍管司令部及團隊司令部ニ勤仕スル職員ニシテ却テ直接軍隊附ノ職員ヨリ薄給ヲ受クル者アルヲ以テ從來久シク此欠點ヲ改正スルノ念慮ヲ保テリ之カ爲メ昨年該職員ノ給養法ヲ少シク改良セリ

又昨年新ニ戰時扶助料支給條例ヲ發布ス

下士ニシテ再役セシムルノ方法未タ完全ナラス陸軍省ハ少クモ歩騎砲ノ各中隊ニ再役下士三名宛即チ全國ニ通シテ一萬六千七百三十四名ノ必要ヲ認ムルモ昨年末ニ於ケル再役曹長ノ數四千八百七十四名再役小隊附下士三千六百六十一名計八千五百三十五名ニシテ處望數ノ半以上ニ過キス而シテ目下陸軍省ノ權力以内ニ於テハ此

再役ヲ獎勵スルカ爲メ下士ニ特典ヲ授クルノ方法ヲ見出サス
 郡兵事司令官下ニ於ケル國民軍ノ幹部ハ再役者ヲ以テ組成ス然ル
 ニ昨年ノ如キハ其規定人員ノ百分二十二ヲ交換セシムルニ過キス
 千八百九十及九十一年ニ於テハ實ニ百分ノ四十四乃至四十六ヲ交
 換セシメ得タリキ
 軍隊ノ教育ハ教育順次令ノ示定ニ依リ逐期良好ニ施行シ且ツ該令
 ニ基ツキ裁可ヲ經テ夏期演習教令ヲ編作ス各軍管ニ於テハ概シテ
 夏期大野營^{フリスチ、スボール}ノ終末ニ行軍機動演習ニ移リ且ツ該演習ニハ大野營集
 合ノ軍隊過半以上ヲ參列セシメタリ唯「キイエフ」軍管ニ於テハ管下
 虎列刺病ノ傳染アリシヲ以テ行軍機動演習ヲ廢止セリ「ワルシヤ」
 軍管ニ於テハ其軍ノ大部即チ第六、十五及第十九軍團ヲシテ機動
 演習ヲ行ハシメ諸兵種連合ノ對抗運動ヲ以テ該演習ヲ終レリ又「ワ
 デツサ」軍管ニ於テ歩兵二十一大隊騎兵二中隊砲兵四中隊ノ上陸軍

ヲ編成シ黑海艦隊ト連合シテ「ワチヤコヴ」ニ上陸演習ヲ行ハシメタ
 リ
 本報告年期ニ於テ「ワルシヤ」^{「キイエフ」}及「モスコウ」ノ三軍管ニ於テ
 初メテ工兵諸隊ヲシテ他ノ野戰軍ノ團隊、攻城並ニ要塞砲兵ト連合
 シテ演習セシメ又「カザン」軍管ニ於テハ初テ三兵連合演習ヲ施行セ
 リ
 特別騎兵演習ハ殆ント歐露及高加索ノ各軍管ニ於テ施行セラレタ
 リ
 各護疆旅團ハ騎兵一中隊ヲ編組シテ之ヲ一般ノ大野營ニ參列セシ
 メタリ然レモ本年ヨリハ更ニ騎兵一聯隊ノ組織ヲ以テ大野營及機
 動演習ニ參加セシメントス
 十一個ノ軍團及六狙擊旅團ノ獵兵部隊ニ試驗ノ爲メ傳令騎(各聯隊
 ニ三騎ノ割合)ヲ付シタリ又獵兵部隊ニ自轉車(一聯隊ニ四、一狙擊大

隊ニ四ヲ配付セリ
 獵兵部隊ノ偵察勤務實行ニ關シテハ東部西伯利狙撃二旅團ノ十獵兵部隊ノ施行セシ地形雜錯ナル烏蘇利河谷ノ偵察ヲ特ニ茲ニ記上セサルヲ得ス
 爾今軍ニ新銃ヲ供用スルヲ以テ長大ノ射的場(師團若クハ軍團毎ニ一)ヲ新設シ併セテ砲兵射的場ヲ増設スルノ必要アルハ昨年ノ奏聞中ニ詳記スル處ナリ
 新設射的場ニ要スル場處ノ撰定ト地價ノ要求トハ甚タ該事業ヲ阻滯セシメ之カ爲メ昨年中射擊場ノ經費ハ唯「ワルシヤ」ヲ軍管ニ於テハ「ゴンシヨロヴ」及「フリストロヴ」ニ第四及第六軍團ノ射的場ノ新設、「キイエフ」軍管ニ於テハ第十一軍團ノ野營地「ゴーヴ」附近ニ該軍團歩砲兩兵ノ射擊場ノ新設、又彼德堡軍管ニ於テハ「クラスノエセロー」野營地ノ在來射的場ノ擴張ノミトス

本年中ニ於テ第十四軍團ノ爲メ「ビヤスカ」ニ第十九軍團ノ爲メ「ブレスト」ニ第十二軍團ノ爲メ「メジブージエ」ニ廣大ナル地區ヲ收得スルノ算ナリ而シテ該地區ニハ前記諸軍團ノ歩兵及砲兵ノ射擊場ヲ成形スルノミナラス、現時練習ノ必要アル集團砲兵ノ射擊即チ八門中隊編成ノ二聯隊若クハ四門中隊編成ノ四聯隊以上ヲ同時ニ占位セシムルノ廣幅ヲ有セシメントス
 本報告年期ニ於テ次ノ新操典書類ヲ發布ス即チ野戰砲兵徒歩操典并ニ應用ノ爲メ立案セル者ニシテ四部ヨリ成ル騎兵操典、全徒歩操典、全教育順次令トス
 現今新ニ歩兵操典、野外要務令、射擊教範并ニ新兵教育法ヲ編纂中ナリ
 ○軍隊内務ノ勤務 該勤務ノ重要ナル者ハ衛戍勤務ニシテ即チ全國ヲ通シテ各日下士卒一萬三千百七十八名ヲ要ス其内八千七百七

十五名ハ軍部ノ爲メ四千四百三名ハ行政部ノ爲ニ供用ス衛戍勤務ノ人員ハ本報告期ニ於テ百七十七名ヲ増加ス是レ主トシテ沿黒龍軍管内ニ於テ新設ノ建築物及倉庫ノ爲メ守衛人員ヲ要スルヲ以テナリ又最大ノ衛戍人員ヲ要スルハ彼德堡府(六百十九名)「モスコウ」府(百八十三名)「ワルシヤ」要塞(四百三十二名)及浦鹽斯德要塞(二百八十八名)トス

護送勤務ハ就中土耳其斯坦及西伯里ノ軍隊ニ重大ナル負擔ヲ感セシム然レモ該勤務ハ新設鐵道ノ完成ト同時ニ其負擔業務ノ大半ヲ輕減セシムヘシ

内務省ニ屬スル護衛勤務員ニ關シテハ同省ト妥協シ動員發令後二十日即チ同勤務員ノ罪囚ヲ内地ニ引致スルノ後ヲ以テ將校四十名下士卒七千七十八名ヨリ成ル同勤務員ヲ兵站、集積倉庫地ノ公務及輸送隊編成トシテ軍部ニ交付スヘシ

不時ノ事變ノ爲メ軍隊ヲ差遣スルコト合計歩兵八十八中隊及騎兵二十四中隊ニシテ即チ製造所ニ於ケル職工ノ騷擾ヲ鎮壓スルカ爲メ十四回、農民ノ紛擾ヲ停止スルカ爲メ十回、火災消鎮ノ爲メ一回、人民ノ動亂ヲ豫防スルカ爲メ五回、匪徒追跡ノ爲メ四回(高加索及沿黒龍)トス

昨年中「カルス」護疆旅團ノ兵員ヲ増加ス是レ從來國境監視ヲ分擔スル哈薩克二聯隊及ヒブラストンスキー歩兵一大隊ノ任務ヲ解除セシムルニ由ル又同時ニ後高加索地方ノ交通監視及警保勤務ニ任スル部隊ニ騎兵五中隊ヲ増加(十六中隊ヲ増シテ二十一中隊ト爲ス)ス之レ後高加索地方ニ於テハ屢々土耳其及彼爾斯ノ隣境ヨリ匪徒ノ侵入ヲ被ムルコトアルヲ以テナリ

第四章 諸學校ノ部

昨年ノ奏聞中ニ將校候補者ノ教育ヲ精良ナラシムルノ規畫ヲ詳細

ニ陳述シ置ケリ此規畫ハ第一士官學校ノ卒業者ヲ漸次増加シ同時ニ補助士官學校ノ卒業者ヲ減少スルヲ第二特科士官學校ヲ擴張シ單ニ特種教育ヲ受クル者ノミヲ以テ砲工兩兵科ノ將校ヲ補充スルヲトス

第一ノ目的ヲ達スル爲メ前年來補助士官學校内ニ於テ別ニ純然タル士官學校ノ高等課程ヲ設ケタリ然レモ本報告年期ニ於テハ尙ホ進ンテ此目的ヲ擴張セサリキ是レ補助士官學校ニ於ケル高等課程ノ授業ハ中學卒業者タル生徒ノ員數ニ關係スレハナリ近年此種ノ員數多カラス特ニ昨年ノ如キハ却テ減少シ隨テ補助士官學校ノ高等課程ヲ受クル者ハ著大ノ欠位ヲ生セリ

特科士官學校ノ擴張景況ハ次ノ如シ即チコンスタンチノブスコエ歩兵士官學校ヲ砲兵士官學校ニ更革スルヲハ既ニ結了ス又ミハイロヴスコエ砲兵士官學校ノ入學生ヲ二百名ヨリ四百二十五名ニ増

大スルノ諸豫設業務ハ本年秋ヲ以テ完成スヘク而シテニコラエグスコエ工兵士官學校ノ擴張準備ハ既ニ昨年ヲ以テ全成セリ

本報告年期ニ於テ正則士官學校ノ課程ヲ卒業シテ士官ニ任用セラレ、者ハ貴族幼年學校并ニ「フィンランド」幼年學校ノ高等別科、二歩兵士官學校及ニコラエグスコエ騎兵士官學校ヨリ計五百二名、「モスコウ」「キーエフ」及「エリザヴェツトグラド」ニ一補助士官學校ヨリ計四百二十名、二砲兵士官學校ヨリ計二百四十五名、工兵士官學校ヨリ計五十五名、測量學校ヨリ十五名ニシテ總計千二百三十七名トス之レヲ前年ノ員數ニ比スレハ卒業生ノ減少スルヲ七十四名トス加之ノミナラス補助士官學校ノ高等課程ヲ受クル者ノ欠員ニヨリ將來尙ホ卒業生ノ減少スルノ憂ヲ免レス

昨年中歩兵士官學校ノ授業課目ニ關シテハ少許ノ變更アリ即チ近年著シク電氣工藝ノ發達セルヲ以テ此課目ヲ増廣シ且ツ全時ニ化

學上ノ課目ヲ查覈セリ又兩砲兵士官學校ニ於テハ新ニ學科課目ヲ
 創定シ之レヲ新學期ニ施行セントスルカ爲メ既ニ其新課目ノ調査
 ヲ終リ且ツ新入學期ノ爲メニ要スル部分ハ全然確定スルニ至レリ
 而シテ砲兵士官學校生徒ノ單ニ二年學期ノミヲ以テ卒業スル者ハ既
 ニ特別ノ講修ヲ經タリ(將來第三年學期ニ就ク者ハ學術優等ノ者ニ
 シテ砲兵大學校入校ノ準備ヲ爲ス者ニ限ル)尙ホ又工兵士官學校ニ
 於ケル二年學期末卒業ノ改正ト優等生ノ爲メ新設スヘキ第三年課
 程ハ全ク其查覈ヲ結了シ且ツ本年秋ヲ以テ新課程ノ卒業生ヲ出サ
 ントス

貴族幼年學校及「フィンランド」幼年學校ノ高等別科ノ空位ハ兩幼年
 學校普通課程ノ卒業生徒ヲ以テ補足スニコラエヴスコ騎兵學校及
 二步兵學校ノ入學生ハ四百三十七名ニシテ内諸幼年學校ヨリ四百
 十六名(百分ノ九十六)他ヨリ十八名トス二砲兵士官學校ノ入學生ハ

計三百二名ニシテ内諸幼年學校ヨリ二百七十六名(百分ノ九十二)步
 騎士官學校ヨリ轉入四名、試験ノ上入學スル者二十二名トスニコラ
 エヴスコエ工兵士官學校ノ入學生ハ計百二十六名ニシテ内諸幼年
 學校ヨリ百七名(百分ノ八十五)步騎士官學校ヨリ二名、試験ノ上入學
 スル者十七名トス

○補助士官學校 補助士官學校ニハ多少ノ變更アリ即チ高等課程
 ノ四學班及尋常課程ノ五學班ヲ有スル「エリザウエツトクラド」補助
 士官學校ニ於テハ尋常課程ノ一學班ヲ閉鎖ス而シテ同校ノ授業課目
 ニハ前文記載ノ如キ更革ナカリキ

千八百九十五及九十六年學期ノ初ニ於テ補助士官學校生徒ノ合計
 三千三百七十一名ニシテ内七百四十四名ハ高等課程ノ者ニ屬シ其
 他ハ尋常課程ノ者トス而シテ故參生徒ノ内第一種ノ普通教育資格ヲ
 有スル者千二百九十一名、第二種ノ普通教育資格ヲ有スル者二百二

名、全ク此資格負帯ニ關係ナキ者五十九名トス

昨年補助士官學校ノ尋常科卒業生徒中將校適任ノ證書ヲ得タル者計千百名ニシテ内四百五名ハ一等卒業他ノ七百五名ハ二等卒業トス而シテ該卒業生徒ハ准少尉試補ニ任セラレ各隊ニ復歸ス又千八百九十五年并ニ前諸年ノ卒業生中ヨリ士官ニ昇叙セラレ、者計二千七百名ニシテ内千二百三十七名(百分ノ四十六)ハ高等課程卒業他ノ千四百六十三名(百分ノ五十四)ハ尋常課程卒業トス蓋シ昨年ハ軍ノ將校要員ヲ増加スルヲ以テ比較上多數ノ任命ヲナセリ且又千八百九十五年ノ卒業員數ハ例年ヨリ多數ナルヲ左表ニ詳ナリ

卒業	正則士官學校	補助士官學校	計
一八九〇年	九五四 (41%)	一三六二 (59%)	二二二六
一八九一年	一〇八二 (44%)	一三八九 (56%)	二四七一
一八九二年	一一八六 (50%)	一一九五 (50%)	二二八一
一八九三年	一一六二 (52%)	一〇六八 (48%)	二二三〇
一八九四年	一三一一 (55%)	一〇九一 (45%)	二四〇二
一八九五年	一二三七 (46%)	一四六三 (54%)	二七〇〇

○幼年學校 本報告年期ニ於テハ幼年學校ノ授業ハ定規ノ如ク進捗シ且ツ其課目ハ敢テ變更スル處ナシ又幼年學校教官練成ノ爲メ彼德堡ニ臨時講習所ヲ設ケ茲ニ各幼年學校及六補助士官校附ノ將校計二十九名ヲ召集セリ

昨年幼年學校ノ卒業生ハ合計八百六十一名(前年ヨリ多キヲ十六名)ニシテ内四百十六名ハ歩騎士官學校ニ二百七十六名ハ砲兵士官學校ニ百七名ハ工兵士官學校ニ入學シ殘餘ノ六十二名ハ其親族ノ請願ニヨリ卒業證書付與ノ上勤務ヲ免除ス

昨年入學志願者ハ計二千七十一名ニシテ其内入校スル者左ノ如シ

官費生ニシテ競争試験ニ依ラサル者	百七十七名
官費生ニシテ競争試験ニ依ル者	七百名
士族團若クハ各箇人若クハ諸會ノ資金ニ依ル者	百五十四名
以上官費若クハ團體費ニ依ル者計	千三十一名

自費即チ各年四百五十留ヲ支辨スル者

二百名

合計

千二百三十一名

現今諸兵士官學校ハ殆ント幼年學校生ノミヲ以テ補充セラル、而シテ諸幼年學校生徒ノ定員ハ合計七千九百名ニシテ此外千八百九十三年ニ於テ自費生四百名ノ許可アリ之レニヨリ各幼年學校ノ卒業生平均八百七十名ヲ出スコトヲ得ヘシ(即チ百名ノ生徒中毎歲平均百分ノ十奇令五トス)然レモ此卒業生徒數ハ將來諸士官學校ノ要求ヲ充スニ足ラサルノ悞レアリ何トナレハミハイロヴスコエ砲兵士官學校及ニコラエヴスコエ工兵士官學校ノ擴張ニヨリ毎年諸士官學校ニ要スル新入學生徒ノ數ハ實ニ千六十名即チ前記幼年學校ノ卒業生徒定數ヲ超過スルコト百九十名トス故ニ斯ノ如キ希望ヲ充ツンカ爲メ新ニ幼年生徒千八百名ヲ増加シ其全數一万一百名ニ達セシムルノ必要アリ

幼年學校入學志願者ノ數ハ常ニ其補欠要數ヲ超過スルヲ以テ幼年學校擴張ハ容易ノ業タルノミナラス併テ軍人家族ノ其子弟教育義務ヲ輕減セシムルノ利アリ故ニ此種ノ擴張ハ甚タ熱望スル處ナレモ經費ニ限リアルヲ以テ悉ク其希望ヲ達成スル能ハス是ヲ以テ昨年五幼年學校ノ補欠生定數外ニ更ニ計百七十名ヲ増募シ且ツ四百名ノ生徒ヲ有スル「ヤロスラヴスカヤ」補助幼年學校(尙ホ此定員外ニ別ニ二百名ノ自費生ヲ有ス)ヲ純然タル幼年學校ニ改編スルコトヲ規定ス而シテ將來幼年學校ノ擴張ヲ大成スルカ爲メニハ更ニ生徒千二百乃至千五百名ノ増募ニ供スル三幼年學校(生徒四五百名ツ、ヲ有スル)ヲ新設スルノ必要アリトス

○補助幼年學校 前記諸幼年學校ノ擴張ハ屋舎ノ設備ヲ待テ今後數年間ニ之ヲ成就スヘク而シテ「ヤロスラヴスカヤ」補助幼年學校ノ改編トシテ昨年二初級ヲ閉チ之レニ變ユルニ純然タル幼年學校ノ第

一級ヲ以テス尙ホ殘餘ノ二級ハ生徒卒業次第之レヲ閉鎖スヘシ
「ヤロスラヴスカヤ」補助幼年學校ノ未閉鎖ニ屬スル學級及「ウヲリス
カヤ」補助幼年學校ノ授業ハ正規ノ如ク進捗シ卒業生計百十一名ヲ
出ス而シテ其優等卒業生ハ試験ヲ經スシテ直ニ補助士官學校ニ入學
シ其他ハ志願兵トシテ軍隊ニ配付シ且ツ普通條規ニヨリ補助士官
學校ニ入ルノ權利ヲ與ヘタリ又正則幼年學校生徒ニシテ將來成業
ノ目途ナキ者八十六名ヲ補助幼年學校ニ轉入セシメ尙ホ又「ヤロス
ラヴスカヤ」學校ノ舊學級ノ漸次閉鎖スルニ由リ「ウヲリスカヤ」補助
幼年學校ノ補欠生百名ノ者ヲ百二十五名ニ増加セリ
昨年中校舍建築ノ主重ナル者ヲ擧クレハ左ノ如シ
一、ミハイロヴスコエ砲兵士官學校ノ擴張ニ對スル増築ノ爲メ八十
一万七千留ヲ支出ス
二、ニコラエヴスコエ工兵士官學校ノ擴張ニ對スル屋舎修築ノ爲メ

定額金中ヨリ十二万留ヲ支出ス

三、コンスタンチノーヴスカヤ砲兵士官學校ノ擴張ニ對スル建築ハ
重大ナラス僅カニ一万五千留ヲ支出スルノミ
四、西伯里幼年學校勤仕者ニ供スル家屋建築ヲ續行ス該建築費ハ計
二十万留ニシテ本年ヲ以テ完成スヘキ者トス
其他經濟上ノ事業ニ關シテハ主トシテニコラエヴスコエ騎兵士官
學校ノ馬匹購買ニ論及セサルヲ得ス本來同校ノ哈薩克中隊ハ校長
ノ監理ヲ以テ近衛除隊哈薩克兵ノ馬匹ヲ購求セルヲ以テ所望ノ馬
匹ヲ獲ルヲ能ハサリシ故ニ爾今同校ノ正規騎兵中隊ト同シク哈薩
克中隊ニモ亦第七騎兵補充部隊ヲ經由シテ馬匹ヲ購求スルニ規
定ス之カ爲メ毎歲購馬要求額ハ二千六十四留ヨリ増シテ二千八百
二十留ニ至レリ
○陸軍諸大學校 四陸軍大學校ノ行務結果ハ左ノ如シ

全科卒業者	參謀大學校	砲兵大學校	工兵大學校	軍律大學校
36	20	25	19	
53		1		
142	26	35	20	
321	54	99	58	

諸陸軍大學校ニ於テハ昨年中其授業課目ヲ變スルコナシ

第五章 軍事司法ノ部

千八百九十五年中陸軍法官部ハ軍法編纂ヲ續行スルコト左ノ如シ

- 一、陸軍刑法ハ既ニ其調査ヲ終リ目下成法トシテ發表ノ手續中ナリ
- 二、戰時裁判構成法ノ改正ハ既ニ其調査ヲ終レリ然レモ野戰裁判所ニ於ケル訴訟法ハ尙ホ未タ審査中ニ屬ス
- 三、聯隊裁判法ノ條項ノ修正及ヒ之ヲ現行諸法規ニ適合セシムルニ關シテハ既ニ其調査材料ヲ蒐集セリ

法官部ノ施設スル業務ハ左ノ如シ

「イルクツク」軍管法官部ノ管轄區ハ廣大ニ過クルヲ以テ軍部裁判所ヲ臨時開廷スルハ獨リ「チタ」及「ウエル」フチウヂンスク「府」ニ留ラス猶ホ「クラ」スノヤルスク「府」ニモ開廷スルコトニ決ス

將校ノ職位ヲ尊重スルカ爲メ拘留中ノ未決將校ヲ法廷ニ召喚スルニ當リ番兵ヲ付スルヲ止メ其地方ノ駐在將校ヲシテ之ヲ看視セシム其開廷ノ長時間ニ亘ルキハ看視將校ノ助手トシテ衛兵司令「將校ナルキ」若クハ地方軍部ノ指示スル將校ヲ任命ス

千八百九十五年中陸軍法官部ハ其直屬ノ行務ヲ果サンカ爲メ法官ヲ團隊ニ派遣セリ又「彼德堡」「ワルシヤ」及「ラデツサ」三軍管軍法部ヨリ回付セル秩序及公安保持ニ關スル三事件ハ陸軍法官部之ヲ審理ス而シテ該三件ニ關スル犯罪者九名ノ内一名ハ死刑ニ六名ハ重罪ニ二名ハ懲戒ニ付セラル然レモ陛下ノ仁恕ヲ以テ死刑罪囚ノ宣告

ヲ取消シ無期礦坑苦役ノ流罪ニ處セラレタリ

第六章 經理務ノ部

昨年ノ奏聞中ニ連年ノ禾穀豐熟ハ千八百九十一年大凶年ノ爲メ非運ニ沈メル市況ヲ全ク回復スルコトヲ陳上セリ而シテ凶年ノ爲メ暴騰セル穀價ハ千八百九十四年ノ豐熟ニヨリ著シク下落スルヲ以テ政府ハ大農地主ノ困苦ヲ救済セシ爲メ市價維持ノ方法ヲ設ケ大藏省ヲシテ直接ニ大農地主ヨリ穀物ノ買收ヲ爲サシム然レモ斯ノ如キ故造的市價維持法ハ敢テ効ヲ奏スルナク昨年ニ至リ益々穀價下落ノ景況ヲ呈セリ

軍隊ニ給養スル未製物及材料ノ市價ハ千八百九十四年ニ比シ稍低廉ナレモ尙ホ前諸年ヨリ高直ナルヲ免レス

○物品給養、昨年新募兵ノ爲メ千八百九十六年ノ物品給養期ニ於テ軍事參議會ハ物品準備トシテ千三百五十八万二千留ノ支出ヲ決

議セリ此支出額ノ内若干年期ノ給養ニ供用スル製靴材料ノ爲メ二十七万八千留ヲ費シ其他ノ物品ハ悉ク競買ニ付セリ而シテ該物品調

辨ハ良好ニ進捗シ前年ヨリモ百分四ノ廉價ヲ呈セリ

本報告年度ニ於テ軍事參議會ハ千八百九十七年ノ物品給養期ノ爲メ千三百二十六万留ノ支出案ヲ豫決ス而シテ今日迄得タル諸報告ニヨレハ本期ノ物品購收ハ一般ニ前年ヨリモ低廉ナランコトヲ前知ス但シ羅紗及製靴皮ハ今日一般ノ需用多キヲ以テ購收ノ一難事ナラ

ン
尙ホ又本報告年期中ニ於ケル物品給養ノ行務ハ國民軍ノ徽章ニ陛下御名ノ頭字ヲ用ユルコト先帝ニ奉仕スル待從將校ノ記念胸牌ヲ制定スルコト、新設若クハ改編部隊(第四十九「アルハンゲロゴードスキ」龍騎兵聯隊、第五十「イルクワスキ」龍騎兵聯隊、「トルクメンスキ」騎兵大隊、ヤロスラヴスキ「幼年學校等」ノ服制ヲ制定ス

被服改良ノ目的ヲ以テ確實且ツ廉價ノ方法ニヨリ防濕絨ノ效用ヲ試ム該試用ハ良成績ヲ呈スルヲ以テ尙ホ廣ク之レヲ實驗セントス

本報告年期ニ於テ「アルミニウム」金屬ヲ以テ携帶兵鍋、壘、杯及衛生部用食器ニ利用スルノ考案ヲ審査シ續ケタリ蓋シ「アルミニウム」金屬ノ物具ハ鐵製ノ者ニ比スレハ二ト二分一、銅製ノ者ニ比スレハ三ト二分一ノ減量ナルヲ以テ之ヲ兵用物具ニ應用セハ兵卒ノ負擔量(衛生部用ノ物具モ全ク)ヲ輕減スルニ至ルヘシ「アルミニウム」金屬製ノ携帶兵鍋ヲ軍隊ニ應用セシムルヲ及食用器物ト諸水液トノ化學的感應ハ既ニ試用ヲ經テ充分ノ良績ヲ得タリ

是ヲ以テ多數ノ白金屬製ノ兵鍋及壘ノ特ニ内地製造所ニ於テ製作スルヲ考定セリ

○糧秣給養、本報告年期ニ於テ糧食ノ準備ハ例年ノ如ク競買、委託購買、直接購買及軍隊購買法ニ用ヒタリト雖モ黑麴用ノ裸麥及麥粉

ハ特別ニ大藏省ヲ經由シテ準備セリ是レ大農地主ノ穀價下落ノ爲メ受クル困弊ヲ救濟センカ爲メナリ

千八百九十四年ノ經過ニ關スル奏聞中大藏省ヲ經由シテ兵餉ヲ調辨スルハ全陸軍ノ爲メ大損害タルヲ言上セリ陸軍省ハ未タ大藏省ト計算ヲ完了セサルヲ以テ茲ニ其結果ヲ述フル能ハスト雖モ斯ノ如キ兵餉調辨ハ敢テ國家經濟ニ利益スル所ナキノミナラス却テ陸軍ノ爲メ大困弊タルヲ言明スルニ踴躍セサルナリ

大藏省ハ穀物高價買收策ヲ取り以テ市價ヲ維持セントセシモ遂ニ成果ヲ得サリキ是レ穀物ノ市價下落ハ其生産高ニ應シテ準定スルニ由ルト全時ニ軍隊ノ需用高ノ如キハ市場堆積穀物ニ何等ノ影響ヲ及サ、ルトニ依ル何トナレハ兵餉要求高ハ全國(高加索ヲ除ク)裸麥産出高ノ百分一ニ該當スルニ過キサレハナリ

是ヲ以テ千八百九十四年ノ兵餉買收ハ尋常購買ニ比シ二百萬留ノ

失費ヲ生セリ然レモ之レ獨リ大藏省ノ高價買收ノミニ因由スルニ
 アラス此買收手續ニモ亦費用ヲ要スル者アルヲ以テナリ
 軍備擴張及戰鬪準備ニ全力ヲ盡サンカ爲メ各部枝葉ノ經費ヲ節減
 スルニ當リ斯ノ如キ失費ヲ陸軍定額金ニ算入スルコトハ深ク苦痛ヲ
 感セサルヲ得ス是ヲ以テ本報告年期ニ於テハ陸軍省ハ依然大藏省
 ニ委托シテ兵餉ヲ調辨スルト全時ニ其尋常競買法ニ比較シテ被ル
 損耗高ヲ更ニ大藏省ヨリ返附スルノ規約ヲ定メタリ
 前二年ノ經過ニ徴セハ大藏省委托ノ兵餉調辨法ハ毫モ陸軍省ニ利
 益スル處ナク獨リ價格高直ニシテ品質ノ疎悪ナルノミナラス調達
 時日ヲ遷延シ其受領格納及搬送ニ悉ク不都合ヲ生セリ
 本年大藏省委托ノ兵餉調辨ハ單ニ彼德堡「フインランド」及「カザン」三
 軍管ノ需用額即チ麥粉二百四十万「ブード」ニ限レリ
 歐露及遼遠ノ諸軍管需用ノ爲メ昨年經理部ニ於テ調辨セル兵餉ハ

合計裸麥二十四万四千「チエツトウエルチ」、小麥二十万八千「チエツト
 ベルチ」麥粉百三十四万九千「チエツトウエルチ」引割麥三十九万二千「チ
 エツトウエルチ」ニシテ此價格計千三百三十万七千留トス以上ノ調
 達額ノ外大藏省トノ定約高稈麥及麥粉計五百八十七万九千「ブード」
 ヲ算ス然レモ此定約高ハ未タ悉ク交付シアラサルト其運搬費及製
 穀費ノ詳報ナキヲ以テ茲ニ其價額ヲ記載スル能ハス
 本報告年期ノ芻秣調達ハ例年ノ如ク概シテ時價ヲ以テ軍隊自ラ調
 辨セリ其總高ハ燕麥及大麥二百四十六万八千「チエツトウエルチ」秣千
 五百四十一万九千「ブード」藁四百二十四万五千「ブード」ニシテ此價額
 千五百九十三万千留ニシテ千八百九十四年ヨリ低廉ナルコト七十二
 万六千留トス
 調味食品(鹽、胡椒等ノ粉)ノ給養ハ前年ト異ナルコトナシ元來調味食品
 料ノ支給法ハ食用肉半「フント」ニ對スル時價毎ニ一哥ヲ加給スルニ

アリ此支給法ハ千八百七十一年ノ規定ニシテ爾來諸物價ノ騰上ニ
 ヨリ下士卒ハ甚タシク調味食料ノ不足ヲ感セリ是ヲ以テ千八百八
 十一年末ニ調味食料増加ノ議アリト雖モ其總括セル經費甚タ巨
 額ニ達スルヲ以テ満足ノ改正ヲ與フル能ハス唯國議院ハ千八百八
 十二年ヨリ調味食料ノ増補トシテ毎歲二百萬留ヲ支出スルコトヲ
 允許ス

調味食料品ノ増加ハ今日ノ急務ナルヲ以テ陸軍省ハ曩ニ此種食品
 ノ價格ヲ調査シ且ツ全時ニ此種食品ノ學理及實驗上ノ要求スル最
 低價ヲ考覈セリ

陛下ハ本年一月ニ千八百九十四年ノ行務經過ヲ申報スル諸軍管司
 令官ノ報告ニ關スル臣カ摘要概覽ヲ親閱セラル、ニ當リ下士卒
 調味食料ノ問題ニ對シ左ノ勅諭ヲ添フセリ

下士卒調味食料ノ改正ハ刻下不可措ノ急務トス朕ハ速ニ此種間

題ヲ適良ニ考定センコトヲ切望ス

仁愛ナル勅諭ノ主旨ヲ達成センカ爲メ陸軍省ハ不日下士卒食料ノ
 改良ニ關スル案件ノ裁定ニ付セントス

飲料トシテ茶ヲ給養スルハ勤務ノ困難若クハ氣候ノ劣惡ニ處スル
 軍隊ニノミ之ヲ支給ス又虎列刺病流行地方ニ於テハ舊例ニヨリ之
 レヲ支給ス

○豫備貯藏品

甲、物品、豫備物品ノ貯藏量ハ一年間ニ少ク變更セリ

戰用ノ爲メ確保スヘキ物品ハ六千二百一十一人分及馬七百七十一頭
 分ヲ増加スルヲ以テ昨年未ニ於ケル總數ハ百八十三萬九千九百四
 十一人各分及馬三萬八千八百二十九頭分ヲ算セリ

此外野戰軍及第一次編成ノ豫備軍ニ要スル輜重積載物品ノ全部ヲ
 有ス然レモ第二次編成ノ豫備軍ノ爲メニハ未タ此種ノ物品ヲ有セ

衛生部材料ノ貯藏ハ次ノ如シ即チ四十九野戰師團(フインラント)狙撃旅團ヲ含ム是レ該旅團ハ戰時師團ヲ編組スルヲ以テナリ)第一次編成ノ二十豫備師團ハ各々一師團編帶處四轉遷病院四豫備病院ヲ有シ第一次編成ノ四豫備師團ハ各々一師團編帶所二轉遷病院ヲ有シ第二次編成ノ十五豫備師團ハ各々一師團編帶所二轉遷病院ヲ有シ、四狙撃旅團ハ各々一轉遷病院ヲ有ス此外沿黑龍軍管ノ爲メ本報告年期中舊編成ノ衛生材料ヲ廢シ新二十四轉遷病院ヲ成形スヘキ衛生豫備材料ノ「ハバロフカ」府ニ編成ス故ニ現時保有スル師團病院ノ數八十八個、轉遷病院三百四十個、及豫備病院二百七十六個ヲ算スヘシ

此外尙ホ要塞病院三十、患者輸送部隊二十三、病院列車三十ノ豫備材料ヲ有ス

衛生豫備材料ノ定規全數ヲ充スカ爲メ尙ホ豫備病院十六ヲ成形スルヲ要ス

豫備物品ノ百分ノ五ハ動員集合地ニ保管シ必要ニ應シ豫備兵ノ着裝ニ供センカ爲メニス其全數七萬三千九百五十一名分ニシテ内三千三百二十五名分ハ昨年ノ増設ニシテ專ラ「ラムスク」及「イルクツク」兩軍管用トス

國民軍ノ爲メニハ其四十砲兵中隊、二十要塞砲兵中隊及二十工兵中隊計一萬九千二百二十名分ノ武器被服騎兵八十中隊(計一萬二千四百八十名)分ノ被服并ニ國民師團司令部全旅團司令部三百二十步兵大隊及二十三騎兵中隊分(計三十一萬八千五百三十名)ノ裝具ヲ有ス乙、糧秣、規定上常蓄スヘキ豫備額及要塞用豫備額ハ合計裸麥、及麥粉八十七萬七千「チエストエルチ」并ニ引割麥十二萬一千五百「チエストウエルチ」トス、本報告年期ノ始ニ於テ該豫備額ハ裸麥及麥粉八十

六万五千五百「チ」ウエウエル「チ」并引割麥十一万九千「チ」エストウエル「チ」ヲ算ス而ノ之レニ去年中ノ蓄積額ナル裸麥及麥粉七千五百「チ」エストウエル「チ」并ニ引割麥五百二十九「チ」エストウエル「チ」ヲ加算スレハ裸麥及麥粉ハ計八十七万三千「チ」エストウエル「チ」ニシテ規定貯蓄額ヨリ少キ「チ」四千「チ」エストウエル「チ」又引割麥ハ十一万九千五百「チ」エストウエル「チ」ニシテ規定貯蓄額ヨリ少キ「チ」二千「チ」エストウエル「チ」トス

「ツルシヤ」府ノ攻圍セララル、ニ方リ同府人民ノ給養ニ供センカ爲メ其特別常蓄糧餉ハ裸麥四十万「チ」エストウエル「チ」引割麥七万五千「チ」エストウエル「チ」食鹽三十万「ブ」ト「ト」及煤炭二百万「ブ」ト「ト」規定ス然レモ目今陸軍省ハ暫ク國議院ノ提意ニ讓歩シ引割麥七万五千「チ」エストウエル「チ」ヲ一万九千「チ」エストウエル「チ」ニ減少スル「チ」ニナセリ

本報告年期ノ始メニ於テ裸麥十九万二千五百「チ」エストウエル「チ」食鹽三十万「ブ」ト「ト」ヲ貯存ス而ノ之レニ昨年蓄積額裸麥七万三千「チ」エストウエル「チ」ヲ加算スレハ現今「ツルシヤ」ノ特別常蓄糧餉ハ裸麥二十六万五千五百「チ」ウエウエル「チ」食鹽三十万「ブ」ト「ト」トス昨年中内地及高加索軍管ノ爲メニ準備セル豫備乾麩ハ六万五千「ブ」ト「ト」又新ニ沿黑龍軍管ノ爲メニ準備セル豫備乾麩ハ四万五千「ブ」ト「ト」トス

是ヲ以テ千八百九十五年末ニ於ケル該豫備總額ハ五十九万七千五百「ブ」ト「ト」ニシテ此外尙ホ一万八千五百「ブ」ト「ト」ノ新調ヲ命セリ兵食用煎餅(小麥製)ノ豫備中ヨリ五千「ブ」ト「ト」ヲ支給ス而ノ昨年中新ニ一万五千「ブ」ト「ト」ヲ領收スルヲ以テ千八百九十六年一月一日ニ於ケル該豫備額ハ合計七万「ブ」ト「ト」ヲ算ス此外千八百九十四年ノ約定額三万五千「ブ」ト「ト」ハ不日收納セラレントス

豫備罐詰ハ百一万二千日料ヲ支給シ更ニ百万日料ヲ新調ス故ニ現
 存額ハ三百七十五万八千五百日料ニシテ此外六十万五千五百日料ノ
 新製ヲ命セリ
 西方國境要塞ノ豫備貯蓄用トシテ現時茶二百十五「ブート」砂糖三千
 百四十四「ブート」及食鹽十萬三千八百五十二「ブート」ヲ有ス豫備芻秣
 ノ貯藏ハ本報告年期中著大ノ増加額即チ燕麥三萬「チエストウエル
 チ」秣二十七萬四千「ブート」ヲ納收ス是ヲ以テ現時其全額燕麥三十七
 萬三千「チエストウエルチ」及秣百十三萬二千五百「ブート」ヲ算ス而シテ
 其内燕麥二萬六千「チエストウエルチ」及秣三萬二千五百「ブート」ハ彼
 德堡軍管ノ者ニ屬シ其他ハ悉ク西部四軍管ノ者トス
 軍部ノ爲メ壓搾芻秣ヲ供用スル私立芻秣壓搾三會社ノ新設ニヨリ
 大ニ豫備芻秣ノ貯藏ヲ容易且ツ増大ナラシメタリ糧秣格納所及經
 理部ニ屬スル技術部用家屋建築ノ爲メ本報告年期中於テ五十二萬

八千留ヲ支出セリ

右支出額ニヨリ施設スル事業概テ次ノ如シ「ウヒリナ」「グロドノ」「カリ
 カーリヤ」及「ヴワリノ」ウヒツチャフ市ニ於テハ穀物四萬五千「チエ
 ストウエルチ」及芻秣三萬五千「ブート」ノ爲メ格納所ノ建築ヲ終リ「ラ
 デツサ」「キシイネヴ」「チラスボル」「ラストロレンク」「ロムジャ」「ヤブロンナ」
 「ガルヲリン」及「マルキン」ノ各處ニ於テ穀物十萬六千「チエストウエル
 チ」砂糖一萬九千六百「ブート」及芻秣十五萬五千「ブート」ノ爲メ諸種格
 納所ノ建築ニ着手ス又「ジロピンスク」芻秣壓搾所ノ改築ヲ終リ且ツ
 「ウヒリナ」及「ウヒニチエ」ニ於テハ貯蓄倉庫ト鐵道驛間ノ連絡線建造
 ニ着手ス別途支出ノ五十萬留ヲ以テ「カルシヤ」府人民ノ非常用糧
 食ノ爲メ施設スル次ノ如シ即チ同府ニ裸麥十二萬五千「チエストウ
 エルチ」及引割麥二萬「チエストウエルチ」ノ倉庫ヲ建造シ且ツ「ブラガ」
 市ニ磨粉所同市及「ボウラスカフ」ニ補助糧食倉庫并ニ「ブラガ」市有豫

備糧食倉庫ト「ブリウヒリンスカヤ」鐵道線トノ連絡工事ニ着手ス
 兵食改良ノ目的ヲ以テ本報告年期中左ノ手段及試験ヲナセリ磨粉
 セサル裸麥ノ穀類ヲ以テ直ニ製麩ノ方法ヲ續行シ試用ノ爲メ之レ
 ヲ軍隊ニ供給セリ該麵麩ノ風味ハ概シテ贊稱ヲ得タレモ經濟上甚
 タ不利益ノ憂アリ何ントナレハ比較上多量ノ水分ヲ含ムト全時ニ
 保存ニ堪ヘサルノ欠點アルヲ以テナリ然レモ此欠點ハ製法ト器械
 ヲ撰擇セハ恐ラクハ除却シ得ンカ
 本報告年期中ニ於テ罐詰緊閉ニ特種ノ器械即チ鑷着法ニヨラスシ
 テ回陷圓線ヲ有スル底鐵葉ノ緊閉法ヲ用ユルニ依リ罐詰法ノ確實
 ト迅速ヲ得ルニ至レリ
 罐詰貯存ノ法ヲ考定センカ爲之ヲ高熱器中ニ試験スルノ方法ヲ續
 行ス又罐詰食品及罐ノ重量ヲ減センカ爲メ成ルヘク植物ノ罐詰ヲ
 減スルト同時ニ肉類ノ罐詰ヲ増加ス而シテ特設乾燥場ニ於テ乾枯ス

ル蔬菜ハ之レヲ行軍及演習ニ使用シ其運搬及實用共ニ好便ヲ與ヘ
 タリ此外蒸氣炊爨具ヲ以テ迅速烹煮ノ諸試験ハ「ウヒジマ」及「スモレ
 シスク」ノ二鐵道給養點千八百九十四年ノ設立ニ於テ施行シ之レニ
 依リ該炊爨具ハ甚タ確實迅速ヲ以テ毎時千若クハ千五百人分即チ
 一晝夜ニ二萬四千若クハ三萬六千人分ヲ調理シ得ルヲ試證セリ
 軍ノ兵力一般ニ發達スルト且ツ軍ノ給養ヲシテ益々安全ナラシメ
 シカ爲メ近年著シク監督部ニ屬スル諸機關ヲ増加セルヲ以テ特ニ
 西境諸軍管ノ監督部ハ此諸機關ノ直接統轄ニ苦メリ故ニ該給養諸
 機關ノ共同動作ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ之ヲ一地點ニ集團セ
 シメ一ノ總指揮官ニ隸屬セシムルノ必要ヲ認メタリ之レカ爲メ「ワ
 ルシヤ」ヲ「ウヒリ」ナ軍管ニ於テハ糧食給養部ノ名稱下ニ若干機關ヲ
 連結ス而シテ「ウヒリ」ノ如キ糧食給養部ハ四即一ハ「バラノ」ウヒツチニ三
 ハ「ワルシヤ」ヲ「ボウ」ランスク「ウ」ラルインスク及「ブラガ」ニ成形セラル

軍ノ動員諸準備ヲ輕減ナラシムルカ爲メ軍團監督部設置ノ必要ヲ認ムルヲ以テ千八百九十二年ニ初メテ該監督部四(第四、第六、第十一及第十四軍團ノ)ヲ設置ス本報告年期ニ於テモ全シク四(近衛、第三、第五、及第十二軍團ノ)且ツ今年度ニ尙ホ四(第二、第九、第十五、及第十九軍團ノ)監督部ヲ増設ス

○輜重 本報告年期ニ於テ新式車輛ノ準備ヲ續行ス該新式車輛ハ野戰軍ニ供用ス而シテ野戰軍ノ舊式車輛ハ糧食輜重編成ノ目的ヲ以テ豫備軍及輜重大隊ニ交付セントス、昨年中ニ注文ヲ命セラレ若シクハ之ニ決スル者ハ二輪車二千五百一、二馬引小銃彈藥二輪車二千八百八十二、二馬引輜重車千八百八十八、挽馬具四千八百七十九、挽馬具(全備セサル者)及馬繫七千二百四十四、並ニ諸種屬品及豫備品ニシテ其價額計九十三萬千五百留トス又昨年十二月注文ニ決スル者ハ新設諸隊ノ輜重ニ要スル車輛全數(傷者運搬者ヲ除ク)五糧食輸送隊ヲ要

スル二馬引車並ニ司令部用二輪車二百五十八ニシテ其豫算價格四十九萬七千留トス以上兩計百四十二萬八千五百留トス
車輛新調ヲ全成スルキハ團隊及衛生部用ノ者ハ新式二輪車及同輜重車六萬三千五百六十八、舊式輜重車ニシテ使用シ得ル者千七百六十、別種新式輜重車五千五百六十九、及四馬引輜重車千六百六十八(高加索)ニシテ計八萬八千四百九十五輛ヲ算ス其配布左ノ如シ
一、規定ノ制式ノ車輛及車數ヲ以テ編組スル輜重ヲ有スル者ハ歐露駐屯ノ正規騎兵、哈薩克騎兵、野戰步兵、第一次編成ノ豫備步兵、狙擊兵及砲兵此外鐵道旅團、四工兵旅團、沿黑龍ノ全團隊、全國ノ衛生諸部、及下級司令部(師團司令部以下)トス
二、高加索ノ諸團隊ハ規定編成ノ輜重ヲ有シ唯二馬引小銃彈藥二輪車ヲ以テ其一馬引二輪車ノ一部ヲ交換スルヲ要スルノミ之レニ反シ其師團輜重ハ規定外ナル四馬引車輛ヲ有ス

三、獨立セサル軍團司令部ハ二輪車ノ規定數及二馬引輜重車ノ若干ヲ有シ司令部付文官乗用ノ馬車、及野戰炊爨具ハ未タ之ヲ有セス又軍司令部及獨立軍團司令部ノ輜重ハ未タ整備シアラス

四、歐露駐屯ノ第二次編成ノ豫備步兵師團ハ從來ノ編組ヲ有スル彈藥輜重(每聯隊ニ一馬引二輪車十六、四馬引車六)ヲ除クノ外ノ聯隊輜重ハ全ク其第一次編成團隊ノ者ト同一ノ組織ヲ有セシメタリ又其師團輜重内ニ在テ三馬引車輛ノ編成ヲ有スル者ハ公屬輜重ニシテ其他ノ糧食輜重ニ於テハ四馬輓車編成ノ四師團分ヲ有スルノミ而シテ其餘九師團ノ糧食輜重ハ目下何種ノ車輛ヲモ有セス是レ其使用ニ供セラレヘキ四馬輓車ハ損敗セルヲ以テ賣拂ニ付スルノ見込ナレハナリ

五、糧食輸送隊百ノ内五隊ハ新式車輛及繫駕具ヲ完備シ十三隊ハ舊式二馬引車及制式外ノ車輛(繫駕具ノ數甚タ少シ)ヨリ組成ス而シテ

目下二工兵旅團及第四十一轉運彈藥縱列ニ千八百八十四年式二馬引車ヲ供用セシメ前記二隊ノ不用車輛千八百八十一(繫駕具ナシ)ヲ輸送隊ニ交付スルノ議ヲ提出セリ斯ノ如クシテ二十四輸送隊ハ車輛ノ全數及繫駕具ノ若干部ヲ有シ殘餘七十六隊ハ更ニ別ニ費用ノ支出ヲ待ツニ非ラサレハ其車輛ヲ具備スル能ハス

六、土耳其斯坦、「ラムスタ」及「イルクツク」軍管諸團隊ノ輜重ハ全ク從前ノ儘トス

以上ノ企圖ヲ實行シ並ニ輜重ノ不足ヲ補充シ且ツ舊式若クハ規則外ノ車輛ヲ交換センカ爲メ尙ホ諸種ノ二輪車八百、二馬引車一萬七千其他ノ車輛五百、諸種ノ繫駕具二千五百、及駄鞍千五百ヲ調製スルノ必要アリ而シテ其費用約五百萬留ニ達スヘシ此外尙ホ前記三軍管及后裏海州諸團隊用ノ輜重ヲ編成スルノ費用ヲ要スヘシ

陸軍省ハ可力及輜重編成ニ要スル費用ヲ減センカ爲メ不日車載物

右ノ表ヲ一覽スレハ戰時軍醫官及藥劑官ノ不足員甚タ多數ナルヲ知ルヘシ該不足員ハ衛生部准職員及相互ノ約諾ニヨリ臨時勤務ニ就テ醫員ヲ以テ補充スヘシ

衛生部職員配定表ニヨリ戰時該職員ノ増補ヲ受クル團隊ハ野戰軍、豫備軍、患者輸送隊、患者輸送列車、野戰衛生本部ノ豫備醫員、師團病院、野戰病院、及要塞病院トス然レモ該補欠醫員ハ衛生部准職員ヲ混用スル者トス(若干病院ハ藥劑官ノ増補員ヲ欠ク)而シテ補充大隊ニハ唯地方醫師ノ志願勤務者ヲ得サル場合ニ限り衛生部職員ヲ配附ス又藥劑官ノ不足ヲ充サンカ爲メニハ戰時藥劑士若クハ同卒業生ノ免許ヲ得タル國民兵役者ヲ以テスル算ナリ

副醫員タル豫備役者ハ多クノ超過員ヲ有スルヲ以テ其一部ハ國民軍ニ配附シ他ノ一部ハ傷者、病者ヲ各地方ニ散遣スルニ當リ地方醫師ノ補助ニ任セシムヘシ

赤十字本部ノ報告ニ依レハ慈惠看護婦ノ員數僅少ニシテ到底動員ニ就ケル軍部ノ希望ヲ充ス能スト故ニ此僅少看護婦ハ就中助力ヲ要スル場處ニ配定スルノ目的ヲ以テ赤十字本部ノ全權内ニ托ス

戰時沿黑龍「イルクツク」及「ラムスク」ニ一軍管ノ豫備衛生部員ハ多クノ欠員ヲ有スル左ノ如シ

補充要員	在豫備役者	不足員	超過員
軍醫官	二百八十九	四十九	二百四十
藥劑官	三十六	一	三十五
獸醫官	二十	一八	二
副 ^{軍醫} 助手	五百五	二百九十八	二百七
醫 ^{藥劑} 中隊看護手	百七十	二百六十三	—
員 ^{獸醫} 獸醫助手	百三十七	百二十三	十四

右不足員ノ補欠トシテ衛生部准職員ヲ使用シ又ハ歐露ヨリ差遣スル衛生部員ヲ以テスヘシ

本報告期ノ始メニ於テ學術研究ノ目的ヲ以テ陸軍醫科大學ニ差遣セラル、軍醫ハ計百十三名ニシテ其後一年ヲ經テ内五十七名ハ出校シ而シテ新ニ他ノ五十八名ヲ入校セシヲ以テ年末ニ於ケル就學軍醫ハ計百十八名(別ニ神經病研究ノ爲メ臨時入校軍醫二名ヲ有ス)ニシテ之レヲ細別セハ學術補修ノ爲メ七十八名、軍陣外科研究ノ爲メ三十六名トス又外國差遣ノ者七名ヲ有ス

○軍隊衛生 昨年中虎列刺病カ前諸年ニ比シ著シク減退シ唯「キーエフ」府軍管ノミハ其侵染ヲ被レルヲ左表ノ如シ

軍管	病者	死者	百分數	
			病者	死者
キーエフ	三百二十七	九十一	二、五九	〇、七〇
彼德堡	四	一	〇、〇九	〇、〇二
ワルシヤ	三	二	〇、〇一	〇、〇一
ウヒリナ	一	一	〇、〇一	〇、〇一

浴黒龍

計

三百四十六

九十六

中數 〇、〇三
〇、三七

中數 〇、〇六
〇、一〇

虎列刺病豫防法ノ嚴行ト共ニ赤痢患者ノ數ヲ減少セシメタリ又窒扶斯發染ノ徵アルヲ以テ常行豫防法ヲ施スノ外全時ニ虎列刺豫防法ヲ使用セリ

陸軍獸醫部ノ業務中左ノ事項ヲ記上スルノ必要アリ

一、平戰兩時ニ於ケル牛馬病院設置規則及軍馬定期巡檢教令ヲ發布セリ

二、騎兵補充幹部隊ニ於ケル馬疫感染ヲ防避スルカ爲メ馬匹引入検査ノ外別ニ豫防検査ヲ施行シ檢視馬匹七千四百五十五頭ノ内感染病馬十頭ヲ發見シ之ヲ撲殺ス又徵候ノ疑ハシキ馬匹百二十四頭ハ之レヲ離隔ス

哈薩騎兵中隊ニ施行セル馬疫豫防法ハ第十章ニ詳ナリ

○陸軍中央衛生會議 陸軍中央衛生會議ハ衛生部ノ出師準備及平時ノ編制ニ連繫スル問題ヲ調査シ而シテ其調査事項中顯著ナル者ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、西境ニ配置セル狙撃旅團ニ供用スル旅團病院編成案ヲ査定ス

二、遼遠ノ諸軍管ニ於ケル戰時衛生諸機關設備ノ問題ヲ調査シ該諸軍管ニハ内地軍管ト稍異ナル衛生機關ヲ得セシムルヲ規定ス

即チ前記狙撃旅團病院ト同性質ノ者ニシテ師團病院ヨリモ尙ホ輕快ニシテ且ツ患者ヲ諸地方ニ散遣スルノ困難ナルヲ顧慮シ可力及多數ノ患者ヲ治療シ得ル組織ヲ取ラシムルニアリ(團隊實員八ニ對シテ一病床ノ割合)

平時衛生業務ニ關セル中央衛生會議ノ議決ニシテ之ヲ陸軍參議會ノ討議ニ付セル者ハ概テ左ノ如シ

精神病患者ニ供用スル病院ノ狹小ナルヨリシテ新ニ「ソガ」及「タシケ

ンド」陸軍病院ニ精神病ノ別科ヲ設クルヲ并ニ「モスコウ」及「ヒキ」エフノ同病別科ニ更ニ計百六十名ノ病床ヲ増加スルヲ申議ス

遼遠ノ諸軍管ニ於テ軍隊配置ノ變換及人馬ノ行動ヨリシテ二陸軍病院ニ計三十五ノ病床ヲ増シ他ノ六陸軍病院ヨリ計百十三ノ病床ヲ減スルヲ申議ス

團隊及衛生各部ノ醫用諸品、昨年中諸種ノ衛生的給養品及治療器械ノ準備ノ爲メ計二十八万六千留ヲ支出シ尙ホ九十七万留ノ注文品ヲナセリ

動員計畫第十六號ニ適準スル衛生部戰用豫備品ハ千八百九十四年ノ企圖ニ基ツキ準備シ且ツ其組織ハ千八百九十八年迄ニ完成スル者トス而シテ藥劑及醫用諸品ハ動員計畫第十六號ニ從テ完成シ且ツ之ヲ藥品倉庫ニ保管セリ然レモ外科器具ハ未タ完備セサルヲ以テ目下千八百九十一年ノ新制式ニヨリ製作シ且ツ之カ爲メ毎歲十七

萬五千留ヲ支出ス又新制式器具ハ國境配置ノ諸團隊ニ配付シ其舊式器具ハ第二等ニ位スル部隊及官廨ニ轉交ス故ニ以上ノ諸企圖ヲ實施シテ千八百九十八年ニ至レハ野戰諸團隊及野戰藥劑所ハ新式器具ヲ全備シ其舊式器具ハ國民軍用トシテ貯蓄セラルヘシ
昨年中繙帶準備目錄ヲ發布セリ然レモ該目錄ニヨリ新準備ヲナスハ明年ヨリ始ムヘシ
戰用衛生物料ハ各團隊及官廨ニ於テ保管ス然レモ若干團隊特ニ「彼德堡」及「キーエフ」軍管ニ於テハ團隊營舎ノ餘裕ナキヲ以テ特ニ之ヲ藥劑倉庫ニ格納ス團隊ニ直屬セサル衛生各部ノ動員ハ近時其所在地ニ四藥劑倉庫ノ設置ニヨリ大ニ其困難ヲ減却ス「ブレスト」「ドゥヒンスク」及「カザン」ノ倉庫既ニ開業シ「クレメンチーグ」ノ倉庫ハ不日開業セントス而シテ諸倉庫ハ授與ヲ迅速ナラシメンカ爲メ衛生各部ノ爲メ各個ニ其需要品ヲ格納ス

昨年極東ノ警アルニ當リ多クノ豫備衛生物料ヲ送致スル次ノ如シ即チ二十歩兵大隊、十七野戰病院、一要塞臨時病院、四旅團病院、及三患者輸送隊ニ要スル衛生物料ノ外野戰藥劑所豫備トシテ五萬人分、外科器具、繙帶及獸醫材料ノ多量ヲ發送セリ其十七野戰病院(十四ハ轉遷、三ハ豫備)用ノ衛生物料ハ彼德堡軍管需用ノ爲メ編組シアル豫備物料中ヨリ採取セルヲ以テ更ニ野戰藥劑所用トシテ編組シアル物料中ヨリ該軍管ノ者ヲ補充ス而シテ野戰藥劑所用ノ空欠ハ新調品ヲ以テ補充セラルヘシ
陸軍醫科大學校 帝國陸軍醫科大學校ノ生徒ハ本報告年期ノ始ニ於テ七百四十七名ヲ算シ其後入學スル者百七十一名、出校スル者百七十名トス出校生ノ内百三十九名(尙其内百三十一名ハ學士ノ稱號ヲ得タリ而シテ之ヲ細別セハ學士得號者中七十八名ハ別ニ優等學士ノ稱號ヲ得、十一名ハ大學ニ殘リテ更ニ高尙ノ研究ニ就キ五名ハ賞

與品ヲ得二名ハ金牌ヲ得タリ其卒業生中百十名ハ軍部ノ勤務ニ服
 スルノ義務ヲ帶フルヲ以テ之レヲ陸軍中央醫務部ニ交付セラレタ
 リハ全科ヲ卒業ス本年首メニ於テ大學生ハ計七百四十八名ヲ算シ
 内三百三十三名ハ陸軍給費生ニシテ軍部勤務ノ責務ヲ有シ五十四
 名ハ私人ノ給費生三百六十一名ハ私費生トス此外又該大學ニ於テ
 ハ南「スラ」種ノ自由聽講生十一名ヲ有ス學術研究トシテ大學
 ニ差遣セララル、者計二百二十二名ニシテ内百十六名ハ陸軍々醫(前
 ニ見ユ)六名ハ海軍々醫、百名ハ諸官廨勤仕ノ者トス而シテ昨年辯論作
 文ニ勝利ヲ博シ博士號ヲ得タルモノ百十一名ヲ算シ之レニ關スル
 諸作業ハ概シテ本大學ノ教授及助教ノ擔任下ニ於テス
 昨年ノ始本大學教授定員三十四名ノ内三十一名ヲ算シ其後三名ハ
 辭去シ更ニ五名ヲ新任スルヲ以テ目下欠員ハ一名ノミトス此外助
 教授六十八名ヲ算シ内四十八名ハ昨年ノ教授ヲ擔任セリ

今世醫學ノ進歩ニ適準スルコト及教課ヲ綜合スルコトノ必要ニ依リ千
 八百九十四年中四講座ヲ改メテ二ト爲シ新ニ他ノ二講座即チ歴史
 學及萬有學ノ一講座并ニ染毒病學及微菌學ノ一講座ヲ設備スルコ
 ニ議決ス歴史學及萬有學ノ講科ハ醫學生ノ一般觀察力ヲ高ムルノ
 利益アリ然レモ今日迄之ヲ大學課程ニ入ル、コトナカリキ而シテ萬有
 學及歴史學ノ講座ハ昨年ヨリ開講シ諸種微菌性物ト密接ノ關係ヲ
 有スル染毒病講座ハ本年ヨリ初メテ開講セラレントス尙又目下大
 學生ヲシテ染毒病實地研究ヲナサシムルノ目的ヲ以テ特ニ染毒病
 舎五及近時ノ新創意ニ基ケル微菌室一ヲ新設セリ
 大學附屬病院ニ於ケル昨年ノ入院患者ハ五千名、外來受診者ハ三萬
 一千名ニ達セリ
 大學生研究ノ補助資金ハ増殖ス之レ昨年ヨリ更ニ一萬留ノ増出ヲ
 得タルニ依ル

第八章 砲兵ノ部

砲兵ニ關スル業務ハ新銃ノ設備、砲隊ノ新設、及斬新創意ノ砲煩、砲架及材料ノ試験ノ爲メ特ニ控徳ヲ極ム加之ナラス新銃ノ全成ヲ終ル迄依然トシテ舊制式武器彈藥ノ補給ヲ實施シ且ツ其從來ノ業務タル彈藥縦列ノ改編及ヒ新式攻守城砲煩ノ備裝ヲ續行セリ

新銃ノ設備 裁定ノ新兵器設備委員會ハ本報告年期中ニ於テ十八回ノ會議ヲナシ三百七十五事件ヲ調査シ其内十八件ハ裁可ニ付セリ

○新銃ノ製造

甲、内國工廠、昨年中内國工廠ニ於テハ建築工事ノ爲メ十一万留、器械改良ノ爲メ三十万六千留ヲ支出ス又本年ハ建築工事ノ爲メ三十一万三千留器械改良ノ爲メ四十五万留ヲ支出スルノ豫定ナリ

千八百九十四年「イヂエブスキ」工廠ノ手工作業ヲ減スル目的ヲ以

テスル新器械六百七十六臺、工場三棟ノ設置ハ昨年之レヲ完成セリ

「イヂエブスキ」工廠ハ此増設器械ニ依リ各年新銃二十万挺ヲ製作スルノ豫定ナリシモ現在十六万挺ヲ製出スルニ過キス是レ目今西伯里鐵道事業及ヒ同鐵道ノ注文ヲ請負セル私立會社ニ良職工ヲ需要スルニ由リ軍部工廠ノ職工ハ屢々變換出入シ隨テ提供器械ノ全機能力ヲ發揚シ得サルニ依ル

然レモ斯ノ如キ變體ハ敢テ新銃製造ノ一般進歩ヲ妨ケス是レ他ノ二工廠ハ其豫定製出額ヨリ却テ多數ノ新銃ヲ製作シ得ルニ由ル即チ「トローラ」工廠ハ二十五万挺ノ代リニ二十六万五千挺ヲ「セストロレ」工場ハ五万挺ノ代リニ七万五千挺ヲ製出シ得從テ配年規定製出額ノ五十万挺ヲ得ル者ナリ

昨年末三工廠ハ前記ノ銃數ヲ製出シ得而シ「トローラ」及「セストロレ」工場ハ專ラ歩兵用新銃ヲ製作シ「イヂエブスキ」工場ハ歩

兵、騎兵、哈薩克用新銃ヲ製作セリ
 昨年ノ製作銃數ハ實ニ四十五萬九千八百八十九挺ヲ算シ其内三十
 四萬千二百十挺ハ歩兵用五萬七千七百七十九挺ハ龍騎兵用、六萬九
 百挺ハ哈薩克用及四千五百七十五挺ハ學校用トス又本年三工廠ハ
 規定額即チ總計五十萬挺ノ製作ヲ課セラレ其内譯三十九萬二千挺
 ハ歩兵用、四萬五千挺ハ龍騎兵用、及ヒ六萬三千挺ハ哈薩克用トス
 昨年中「イジエーヴスキ」製鋼場ニ課セラル、者ハ銃身五十萬箇、藥
 室部四十萬個并ニ鋼鐵、鋳鐵及針線八萬九千「ブート」ニシテ其製出高
 銃身五十一萬千個藥室部四十六萬七千個并ニ鐵類八萬九千「ブート」
 ヲ算ス又本年同工場ニ課セラル、者ハ銃身五十萬個、藥室部五十萬
 個及「イヂエヴスキ」小銃工廠ノ製作高十六萬挺分ノ鐵類トス
 乙、佛國工廠「シヤテルロ」工廠ハ約定期限ヲ過クルヲ六週間后即チ
 本年四月半ヲ以テ其注文銃數五十萬三千五百三十九挺ノ殘餘四萬

千六百八十九挺ヲ交付セリ
 本年一月一日迄新銃製作ノ總計高左ノ如シ

内地工廠	佛國工廠	計	步 兵 用	龍 騎 兵 用	哈 薩 克 用
七五三、二一一	五〇三、五三九	一二五、七五〇	一一一、二九八	一一一、二九八	九〇、九〇〇

斯ノ如ク新銃總計百四十五萬八千九百四十八挺ヲ製作シ且ツ内地
 工廠ニ於テ此外學校用新銃二萬四千五百七十七挺ヲ製出セリ
 ○新銃ノ下付 軍隊ニ新銃ヲ下付スルコトハ千八百九十三年ヨリ開
 始シ昨年ニ至リ更ニ其步武ヲ進メタリ
 歩兵新銃ノ下付ヲ得シ團隊ハ即チ歩兵十師團「フィンラント」及高加
 索狙擊旅團、十一豫備旅團(第二次ノ聯隊ニ)及ヒ二十二要塞歩兵大隊
 トス此外遼遠ノ軍管ニ送付セル者即チ沿黑龍軍管ニ二萬三千九百

八十挺「ラムスタ」軍管ニ二万三千八百六十挺及「イルクローツク」軍管ニ九千四百挺トス而シテ昨年中ニ下付セル歩兵用銃數ハ四十八万三千二百二挺ニ達セリ

騎兵新銃ノ下付ヲ得シ團隊ハ即チ十四騎兵師團、全哈薩克師團、一獨立騎兵旅團、全騎兵補充幹部隊、特別禁衛兵^{コンプレイ}哈薩克二聯隊(第一次ノ「ダケテンスキ」騎兵聯隊、二十三哈薩克歸休聯隊(第二次ノ「トス」此外沿黑龍軍管ニ四千五百挺「ラムスタ」軍管ニ三萬六百挺及「イルクローツク」軍管ニ二百二十挺ヲ送付ス尙ホ又海兵團ニ九千挺、十六護疆旅團ニ一萬九千五百挺ヲ交付ス而シテ昨年中ノ新銃下付數ハ龍騎兵銃六萬五千九百五十五挺、哈薩克兵銃四萬八千四百八十九挺ニシテ此外別ニ學校用トシテ歩兵、騎兵、及哈薩克兵銃計五千五百二十四挺ヲ下付ス

本年首迄軍隊ニ交付セシ新銃ハ全計百三十二萬四千三百二十八挺

ニシテ内歩兵銃ハ百十七萬八千八十四挺、龍騎兵銃ハ九萬二百一挺及哈薩克兵銃ハ五萬六千四十三挺トス而シテ尙ホ武庫及工廠ニ保管スル者計十三萬四千六百二十挺トス斯ノ如クシテ歐露及高加索ノ全野戰歩兵(「フィンランド」軍ヲ除ク)豫備歩兵ノ一部、要塞歩兵ノ大部、全正規騎兵(「フィンランド」龍騎兵聯隊及「クルイム」騎兵大隊ヲ除ク)戰時編成ノ哈薩克軍ノ半數沿黑龍及「イルクローツク」軍管ノ殆ント全部、土耳其斯坦及「ラムスタ」二軍管ノ一部ハ皆新銃ノ補給ヲ受ク

本年ハ工兵隊、豫備軍、要塞軍、哈薩克歸休兵及補充軍ノ若干部ニ新銃ヲ下付シ尙ホ土耳其斯坦軍管后裏海州ノ團隊及海兵團(最后ノ交付ニシテ計四千五百挺)ニモ亦タ新銃ヲ交付セントス其豫定數五十一萬挺ナリ

第一期ノ新銃交付ハ千八百九十七年夏ヲ以テ終結セントス而シテ第二期ノ交付用及豫備銃ノ製作ハ更ニ千九百年末ヲ以テ完成スヘシ

然レモ一時ニ新銃ノ製作ヲ終ルキハ俄ニ製造業務ノ減縮ヲ來スヲ以テ第二期ノ新銃ノ製作ハ逐次ニ其業務ヲ縮小シテ千九百一一年末ニ完成センコトヲ期ス

新銃製作ト全時ニ「トーラ」製銃工廠ヲシテ昨年裁下ノ新式拳銃ノ製造ニ着手セシム該拳銃ハ一般ノ改正ヲ施スト同時ニ無烟火藥ノ應用ニ適セシメ且ツ其口徑ヲ三厘ニ減少スル者ナリ

「トーラ」工廠ニ於テハ各年拳銃一乃至二萬挺ノ製造ヲ企畫シ其製造着手ハ小銃製作業ノ漸縮期即チ千八百九十七年ヨリ始ントス

○小銃彈藥ノ製造 昨年中小銃彈藥ハ彼德堡官設工場及「トーラ」私設工場ニ於テ製作スルノ外新官設「ルガンスク」工場ニ於テ著大ノ製作ヲ始メタリ

彼德堡工場ハ建築工事ノ爲五萬八千留、器械電氣燈及通風器設備ノ爲メ三萬一千留ヲ支出シ尙ホ本年ノ建築工事ノ爲メ二萬三千留、器

機設備ノ爲メ六萬九千留ヲ費スヘシ昨年中該工場ハ新銃ノ實彈藥筒一億四百萬發空彈藥筒五千四百萬發、拳銃彈藥筒六百萬發及雷管二億千九百萬個(内一億五百萬個ハ「トーラ」工場用、二千七百萬個ハ「ルガンスク」工場用ニシテ該工場ハ雷管ヲ製造シ得サル者ナリ)ヲ製作ス而ノ本年ニ於ケル該工場ノ課業實彈藥筒一億發、空彈藥筒二千六百萬發及拳銃彈藥筒六百萬發ヲ製作スルニアリ

藥筒雷管及彈被製作ニ使用スル黃銅、着金屬ノリヒナルノ類ハ悉ク内地製造所ニ於テ製作シ得之レカ爲メ豫備品ト凡テノ藥筒一億四百萬發分ノ黃銅及彈被七千二百萬發ノ着金屬ヲ殘スニ至レリ

「トーラ」工場ハ新銃用彈藥筒九千萬發ヲ製出ス本年モ亦該工場ニ同數ノ製作ヲ課ス

「ルガンスク」工場ハ千八百九十年ヲ以テ設立ニ着手シ昨年ノ春竣工ス其要セシ總經費二百十七萬留トス而ノ同工場ノ昨年ニ於ケル彈

藥筒製出高ハ一千萬發ニシテ本年ノ課定高ハ六千萬發トス
 三工場ニ於テ今日迄ノ總製出高ハ計九億九百萬發ニ達シ其内一億
 九千萬發ハ既ニ射擊演習ニ使用ス一般ニ彈藥製造業務ハ著シク進
 歩スルヲ以テ新兵器ノ配付ト同時ニ軍隊及縱列ノ戰時要求額(即チ
 一步兵銃ノ爲四百十一發半一騎兵銃ノ爲メ二百六十發ノ割合又沿
 黑龍軍管ニハ一銃ニ付五百發宛ヲ交付シ且ツ演習用トシテ二年分
 ノ者ヲモ送付セリ)ヲ充スヲ得ヘシ加之ナラス西境諸要塞ノ豫備彈
 藥即チ一億四千萬發ノ規定額モ亦既ニ昨年中之ヲ交付シ得ルノ餘
 裕アリタリ
 新銃彈藥筒ノ五發連束ノ支持板ハ「ト」ラ製銃工廠ニ於テ製造シ昨
 年其製出高五千萬個ヲ算シ本年ハ更ニ四千萬個ノ製作ヲ課セリ
 ○火藥ノ製造 去年ノ秋「シヨスカ」火藥製造場ニ於ケル無烟火藥製
 造所ノ設立ヲ終レリ

「ラフタ」火藥製造所ハ無烟火藥八萬「ブ」ト「内二萬」ブ「ト」ハ野戰砲兵
 用、五萬二千五百「ブ」ト「ハ」攻守城砲用、七千五百「ブ」ト「ハ」空發用ナリ
 及摸範「ビロクシリン」六千「ブ」ト「ラ」カザン「火藥製造所」ハ攻城砲用無
 烟火藥五萬「ブ」ト「ラ」シヨスカ「火藥製造所」ハ無烟火藥九千五百「ブ」
 「ト」ヲ製出ス而シテ有烟火藥最早其製造ヲ廢止ス又去年中激烈ナラサ
 ル爆裂三回ヲ見レモ人員ヲ損傷セサルノミナラス修繕「ノ」爲メ
 別ニ經費ヲ要スルコトナシ
 本年各製造所ニ課スル製藥高ハ次ノ如シ即チ「ラフタ」ニ八萬「ブ」ト「
 ト」カザン「及」シヨスカ「ニ」各四萬「ブ」ト「計」十六萬「ブ」ト「ニ」シテ其内二
 萬八千「ブ」ト「ハ」小銃用、二萬五千五百「ブ」ト「ハ」野戰砲兵用、九萬五百「ブ」
 「ト」ハ攻守城砲用及二萬「ブ」ト「ハ」空發用トス
 昨年中間斷ナク製藥器械ヲ運轉セシムルノ目的ヲ以テ「ラフタ」製藥
 所ニ水力ヲ利用シ並ニ工場ニ電氣力ヲ傳致セシムルノ裝置ニ着

手ス之レカ爲メ要スル費用ハ八萬一千留ヲ出テサルヘシ而シテ各年需用スル石炭價三萬四千留ヲ節減スルヲ得ヘシ
 現今「ヲフタ」製藥所附近ニ「メリニット」爆裂藥製造場ノ新設ニ着手ス而シテ各年該爆裂藥製造高ハ六擲臼砲若クハ他ノ砲煩用ノ炸藥量一萬個分トス又該製藥場ハ本年五月ニ竣工スヘキ者ニシテ之カ爲メ六十萬留ヲ支出セラル

○新銃設備ノ經費

○本報告年期ノ支出

三〇、三五五、〇〇〇圓

(但シ此内ニ定額金五百四十六萬九千留ヲ含ム)

○前諸年ノ剩餘金ニシテ豫備基

金ニ算入セラレシ者

一七、七二五、〇〇〇圓

○定額金中ヨリ支出セシ者

一二六、〇〇〇圓

計

四八、一九六、〇〇〇圓

右ノ金額中ヨリ辻拂ヲナスヲ左ノ如シ

○製造所ノ建築工事及器械設備ノ爲メ

一、七六九、〇〇〇圓

○小銃製造ノ爲メ

一三、〇一三、〇〇〇圓

○藥筒及雷管製造ノ爲メ

一〇、四四三、〇〇〇圓

○火藥製造ノ爲メ

六、六二四、〇〇〇圓

○運搬及差遣ノ爲メ

一、二七四、〇〇〇圓

○俸給及試験費ノ爲メ

五一〇、〇〇〇圓

計

三三、六三三、〇〇〇圓

斯ノ如クシテ多額ナラサル金額千四百五十六萬三千留ヲ餘セリ
 右殘額ハ製造費ニ使用シ尙ホ剩餘金ヲ得ハ之ヲ新銃設備委員會ノ豫備基金ニ算入スヘシ
 本年度ニ於テ二千八百二十一萬一千留(此内ニ定額金五百五十一萬一千留ヲ含ム)ヲ支出セラレ其豫定ノ使用法左ノ如シ

製造處ノ建築工事及器械設備ノ爲メ	六九一、〇〇〇
小銃製造ノ爲メ	一〇、三九〇、〇〇〇
藥筒及雷管製造ノ爲メ	一〇、一四〇、〇〇〇
火藥製造ノ爲メ	五、〇四七、〇〇〇
運搬及差遣ノ爲メ	一、四〇八、〇〇〇
俸給及試験費ノ爲メ	四八九、〇〇〇
豫備基金ニ殘入スル者	四六、〇〇〇
計	二八、二二一、〇〇〇

○軍隊ノ武器 本年初ニ於ケル軍隊ノ武器ハ左ノ如シ

一、軍隊使用ノ武器ハ三厘口徑新銃百三十二萬四千挺及ベルダン銃八十四萬挺ニシテ國民軍用トシテ保管セラル、者ベルダン銃五十七萬四千挺并ニ豫備トシテ保管セラル、者ベルダン銃百六十三萬五千挺ヲ算ス此外既ニ上文中ニ記セルカ如ク工廠及武庫ニアル

三厘新銃十三萬四千五百挺ニシテ全計三厘新銃百四十五萬九千挺及ベルダン銃三百四萬九千挺トス

二、軍隊使用ノ拳銃ハ十四萬挺、國民軍用ノ者五千五百挺、豫備一萬五千挺ニシテ全計十五萬六千挺トス

三、軍隊使用ノ新式軍刀十七萬三千挺、豫備三萬挺ニシテ全計二十萬三千挺トス

軍ニ新銃ヲ供給スルノ度ニ隨テベルダン銃彈藥筒ノ需用ハ減退ス而シテ昨年末ニ於ケル該彈藥筒數ハ計四億五千萬發ニシテ其内六千萬發ハ既ニ射擊演習ニ費消シ尙ホ三億九千萬發ハ殘留セリ此殘留額ヨリ未タ新銃ノ交付ナキ團隊ノ供給ニ二億二千二百萬發ヲ要ス斯ノ如クシテ未タ全ク新銃ノ交付ナキ間全時ニ二類ノ彈藥ヲ供給スルヲ以テ后来不用ニ歸スヘキベルダン彈藥ノ多額ナル豫備ヲ尙ホ殘存セサル可ラス、是レ甚困難ナル問題ナリシモ幸ニ現今好景況

ヲ呈スルニ至レリ

○野戰、豫備、補充、及出撃砲兵 昨年ノ奏聞中ニ千八百九十五年乃至九十八年間ニ於ケル砲兵増加計畫ヲ詳細ニ列陳セリ該計畫ニヨリ新設セラルヘキ砲兵ハ計百八中隊ニシテ内八十四中隊ハ野戰砲兵、十三中隊ハ豫備砲兵、三中隊ハ補充砲兵、八中隊ハ臼砲兵トス(此内第二十及第二十一軍團ノ砲兵二十四中隊高加索豫備砲兵三中隊、及臼砲八中隊ハ千八百九十三年ノ計畫ノ結果ニヨリ編成セラル其他ノ砲兵中隊ハ千八百九十四年十月二十三日ノ勅令ニヨリ編成セラル、者トス)

前陳ノ計畫ニ基キ本報告年期ニ於テ野戰砲兵十八中隊及臼砲四中隊ヲ新設ス而シテ其野戰砲兵中隊ハ近衛軍團、ワルシヤ軍管ノ五軍團及其他ノ五狙撃旅團ノ改正編成ニ借用スルカ爲ニス又其新設臼砲中隊ハ二中隊編成ヲ有スル第六及第七臼砲聯隊ヲ編組セリ

其他ノ砲兵中隊ノ新設ハ特ニ千八百九十七年及九十八年ヲ以テ整備セシムヘシ而シテ本年度ニ於テハ單ニ四臼砲中隊ノミヲ新設シ之レニヨリ第四及第五臼砲聯隊ノ四中隊編成ヲ完全ナラシメントス」
昨年中歐露ノ砲兵聯隊ニハ悉ク大隊ノ團結ヲ新設シ此外狙撃旅團所屬ノ砲兵中隊ヲ以テ五砲兵大隊ノ團結ヲ取ラシメタリ又騎砲兵中隊ヲシテ大隊ノ團結ヲ取ラシメンカ爲メ昨年中之ヲ近衛騎砲兵及十騎兵師團ニ處屬スル騎砲兵中隊ニ施行セシメタリ
極東ノ事變ニ對シ昨年非常處分ヲ以テ沿黑龍軍管ニ砲兵六中隊即チ西部西伯里ヨリ輕砲二中隊、歐露ヨリ輕砲二中隊及臼砲二中隊ヲ増遣ス而シテ舊東部西伯里砲兵聯隊西部西伯里ノ輕砲二中隊、及歐露ノ臼砲二中隊ヲ以テ新ニ二砲兵聯隊ヲ編組シ別ニ歐露ノ輕砲二中隊ヲ以テ后具加爾獨立砲兵大隊ヲ編組セシメタリ又西部西伯里砲兵聯隊ハ二中隊ニ減少セルヲ以テ之ヲシテ大隊編制ヲ取ラシメ尙ホ又

歐露ヨリ送遣セル四砲兵中隊ノ空位ハ新設隊ヲ以テ之ヲ填補セリ
 砲兵増加ヲ續行センカ爲メ本年度ニ於テ第一東部西伯利砲兵聯隊
 ノ山砲二半中隊ヲシテ山砲二中隊ニ擴張セシメントス
 斯ノ如クシテ本報告年期ノ砲兵増加ハ計輕砲二十中隊、及白砲兵六
 中隊ヲ算ス而シテ新設輕砲兵用材料ハ國民軍二十砲兵中隊ノ豫備材
 料ヲ流用シ白砲中隊ノ材料ハ來年度ノ準備品ヲ流用セリ(沿黑龍ニ
 送遣セル白砲二中隊ノ空位填補ノ砲兵用材料ハ今年新設隊ノ準備
 品ヲ流用セシメシナリ)
 本報告年期ニ於テ新ニ輕砲七十三中隊及白砲二中隊分ノ材料(內輕
 砲五十中隊分ハ將來ノ新設ニ供スルカ爲メ、輕砲一中隊分ハ高加索
 山砲中隊一ヲ輕砲編成ニ改ムルカ爲メ、白砲二中隊分ハ本年ノ新設
 用ノ爲メ其他ハ豫備材料中ヨリ千八百九十四年「コンスタンチンス
 コエ」砲兵學校用ノ爲メ二中隊分ト及本報告年期ニ於テ二十輕砲中

隊分ヲ臨時貸補セル者ヲ填補センカ爲メ)ヲ注文セルノミナラス尙
 ホ經費ノ許ス限リ戰時用豫備品ノ注文ヲ爲セリ而シテ其他ノ新設豫
 定ノ砲兵中隊ニ要スル材料ノ一部ハ本年度ニ於テ一部ハ次年度ニ
 於テ注文ヲナサントス

千八百八十九年新式ノ彈藥車ハ昨年新設ニ係ル「ワルシヤ」軍管ノ
 十八砲兵中隊ニ供給セラル

昨年土耳其斯坦軍管ヲ除クノ外諸軍管ニ於ケル砲兵射擊演習ヲ悉
 ク無烟火藥ヲ使用セシメタリ本年夏期ヨリ豫備有烟火藥ヲ費消シ
 盡サンカ爲メ半部ハ無烟火藥半部ハ有烟火藥ヲ使用セシメントス
 無烟火藥ヲ野戰砲兵裝藥ニ供用センカ爲メ之ト有烟火藥トノ交換
 ハ遲滯セリ是レ無烟火藥ノ特性トシテ其乾燥后半年ヲ經サレハ供
 用シ得サレハナリ而シテ今年首ニ於テ「ワルシヤ」沿黑龍兩軍管ノ全
 部及「キーエ」軍管ト后裏海州ノ一部ハ悉ク無烟火藥裝藥ヲ有シ其

他ノ諸軍管ハ目下交換中ニシテ本年夏ニ至レハ全ク其支給ヲ終ルヘシ

○彈藥縱列 昨年中輕彈藥縱列一ヲ増加ス是レ東部西伯里砲兵聯隊ニ特設彈藥縱列ヲ新設シ同聯隊ノ動員ニ際シ砲兵彈藥縱列一(彈藥車三十六)歩兵彈藥縱列一(二輪車六十四)及駄馬彈藥半縱列(駄馬六十四頭)ヲ編組セシムルカ爲ニス

后裏海州ノ「アスハバド」彈藥倉庫ニ轉遷彈藥縱列及地方彈藥廠若干并ニ轉遷彈藥縱列及地方彈藥廠用ノ駄載具ヲ増加ス

新設砲兵諸中隊ニ供給セル彈藥二萬發ヲ控去スルノ外諸彈藥縱列ノ彈藥ハ全ク充實セリ而シテ此二萬發ノ補欠トシテ既ニ砲兵工廠ニ新製ヲ下命シ本年水路開通ヲ期シテ調回セラレントス

輕及轉遷縱列用四輪車ヲ廢シ之ニ代ユルニ千八百九十二年式二輪車ヲ以テスルノ件ハ昨年中之ヲ續行セリ而シテ昨年末ニ於ケル右二

輪車ノ要數ハ計五千六百五十六輛ヲ算シ内二千二百九十六輛ハ既ニ之レヲ諸縱列ニ配付シ六百八輛ハ本年調達ノ見込ヲ以テ之レカ新調ヲ命セリ

將來豫備軍第一次師團ノ彈藥補給ヲ完全ナラシメンカ爲メ十五轉遷彈藥縱列ヲ輕彈藥縱列ニ改編スルノ計畫ニ關シテ既ニ昨年改編ニ要スル諸材料ヲ轉遷彈藥縱列ニ交付セリ

○要塞ノ備砲 昨年新ニ西國境七要塞ノ備砲定數ヲ改正シ之カ爲メ砲四百二十門ノ増加ヲ生ス而シテ全國諸要塞(リバワ)及浦鹽斯德ヲ除キ陸用砲定數ハ計七千九十六門ニ達シ此外「ワルシヤ」^{ブラッヂ}集屯所ノ七十二門及特別豫備五百門ヲ合算スレハ全計七千六百六十八門トス然ルニ目下現在砲數ハ八千二十二門ニシテ却テ定規備砲數ヲ超過スルノ觀アレバ其實却テ然ラスシテ要塞備砲表ニ掲クル正規砲種ヲ欠ク一千三十七門トス故ニ此不足數ヲ補充センカ爲メ本年製

砲工廠ヨリ三百十七門ヲ調達スルヲ豫期ス
 海岸諸要塞(リバワ)及浦鹽斯德ヲ除キノ海岸砲定數ハ千二百八十三
 門、特別豫備(バルチック)及黑海防禦用砲百七十九門、兩計千四百六十
 二門ニシテ尙之レニ昨年黑龍江ニコラエヴスタ港ノ防備ニ増加セ
 ラル、十六門ヲ加フルヲ要ス而シテ目下現在ノ海岸砲數ハ計千三百
 六十九門ニ達スルモ正規砲種ノ不足數ハ尙ホ百三十五門ヲ算ス此
 不足數ヲ補填センカ爲メ本年製砲工廠ヨリ五十九門ヲ回調スルヲ
 豫期ス
 諸要塞ノ備砲ハ破壊彈、圓分彈及榴霰彈ヲ除クノ外ハ悉ク規則通り
 ノ彈種、砲架及屬具ヲ有ス
 諸要塞陸用砲煩ノ有スヘキ定規彈數ハ合計破壞彈三十六萬四千發、
 榴霰彈四十二萬九千發ナルニ現在ノ所有高破壞彈二萬六千發、榴霰
 彈十一萬九千發ニ過キス又其注文中ニ係ル者ハ破壞彈十萬四千發、

榴霰彈八萬七千發トス而シテ海岸砲ノ有スヘキ定規彈數ハ合計破壞
 彈二萬九千發及圓分彈九千發ニシテ目下注文中ニアル者ハ破壞彈
 九千發トス而シテ一般ニ不足彈數ノ補充ハ其經費ヲ得ルニ從テ漸次
 之ヲナス者トス
 目下築造中ナル(リバワ)軍港防禦ノ備砲數ハ未タ確定セラレス然レ
 モ海岸砲六百五十七門、陸用砲四百七十二門計六百五十七門ノ配備
 案ヲ決議セラル而シテ之レカ爲メ現ニ海岸砲七十九門、陸用砲八十門
 ヲ格納シアリ尙ホ臨時ノ兵備トシテ舊式砲二百七十二門ヲ供給ス
 ルヲ得ヘシ
 沿黑龍軍管司令官ハ浦鹽斯德ノ防備ヲ強固ニセンカタメ砲百四門
 ノ増加ヲ請求セリ之レニ因リ先ツ砲三十門ヲ調達シ其一部ハ既ニ
 昨秋之ヲ運搬シ其餘ハ本年融氷ヲ待ツテ回運セシメントス其請求
 及調達ノ砲種左ノ如シ

要求	數	調達セシ者
十一擗砲	1	六、十擗ノ代リニ
十擗砲	22	
六擗カネー式砲	34	
四十二厘砲	14	
五十七密海岸砲	10	
十一擗臼砲	4	
九擗臼砲	10	
三十四厘臼砲	20	
計	104	30

浦蘆斯德港用砲煩ノ設備ニ供セン爲メ昨年ヲ以テ千八百九十六乃至九十八年間ニ二百萬留ノ支出ヲ可決セラレ其内七十萬留ハ本年度ノ經費ニシテ之レニ依リカネー式六擗砲ヲ注文セントス
 曩ニ「ラデツサ」港ニ特種豫備砲七十八門ヲ置クヲ確定セラレシカ
 昨年更ニ之ヲ百六十門ト改定シ且ツ其十一及九擗砲ヲ省略シテ若

干新制式砲煩ヲ備フルコニ決ス而シテ該特種豫備砲煩ハ既ニ新要領ニ從テ充實セラレ唯六擗カネー式十門、マキシム機關砲二十四門ヲ欠クノミ又此不足砲煩及各砲種ノ豫備用破壊彈ヲ準備センカ爲メ本年度ニ於テ經常費ノ外二百十九萬三千留ヲ支出セラル

○攻城砲兵 新編成ヲ有スル攻城砲廠半部二ハ「ドウヒンスク」及ヒ「アレストリトヴスク」ニ配置シ之ニ臨時備裝ヲ與ヘタリ但シ其九擗臼砲用破壊彈八百發ノ欠乏ハ本年中ニ補足セントス又「キーエフ」ニ編成セラル、攻城砲廠半部ノ欠乏ハ唯口徑四十二厘砲用榴霰彈八千七百發、六擗臼砲用破壊彈千六百八十發ニシテ本年中ニ製砲工廠ノ調達ヲ得ヘシ而シテ同府ニ存在スル他ノ半部ハ舊編制ノ儘トス尙ホ又高加索攻城砲廠ハ千八百九十四年ノ規定ニ準シ漸次完實シツ、アリ

輓今要塞構成ノ完全、鞏固ナルニ伴フテ攻城砲兵ノ活動力ヲ保タン

カ爲メニハ成ルヘク臼砲、短加農ノ擲射ヲ増加シ併テ舊式六擲臼砲ニ比シテ著シク優力ナル新式六擲臼砲(重量二百ポンド)ヲ砲廠ノ編組中ニ加フルノ必要ヲ認メ昨年之カ爲メ全歐露ノ攻城廠ノ編制ヲ改正セリ而シテ新編制ニ於テ別ニ砲數(四百二十四門ニシテ舊制ノ儘)ヲ増加スルコトナキモ從來ヨリモ長加農ノ數ヲ減シ却テ短加農ノ數ヲ増加スルト同時ニ成ルヘク新式ノ諸砲煩ヲ加入シ且ツ非常ノ爆裂炸藥ヲ填實スル破壊彈數ヲ増加セリ又此新編制ハ未タ實施ノ運ニ至ラサル者ナリ

改良砲煩及材料ノ供給ハ全ク澁滯且ツ遲緩シ去レリ是レ我カ官設製鑛諸廠ハ其課定ノ業務ヲ約定ノ時期中ニ完結セサレハナリ茲ニ其一例ヲ示セハ「ベルム」製鑛廠ハ新設砲兵隊用ニ供スル輕砲二百八門ノ注文ヲ受ク内百六十門ハ千八百九十四年ニ他ノ四十八門ハ千八百九十五年ニ交付スルノ約定ヲ結ヒシモ該製鑛廠ハ本年首ニ至

リ僅ニ四十一門ノミヲ交付シ來レリ又同製鑛廠ハ千八百九十二及九十三年ニ九擲臼砲破壊彈六千三百四十二發ノ注文ヲ受ケ千八百九十四年八月迄ニ其交付ヲ約セシモ同期限中ニ一彈ヲモ交付スルコトナク漸ク本年ノ水路開通期ヲ待テ僅ニ二千發ヲ交付シ來ルニ過キス

斯ノ如キ製造業務ノ遲緩ハ悉ク豫定計算ヲ錯誤セシメ止ヲ得スシテ戰時用豫備材料ヲ流用シ若クハ私設製鑛場ニ製作ヲ依托セシムルニ至ル者ナリ

○砲兵材料ノ研究及適用 中將エングリガルト氏ノ野砲ノ射擊速度ヲ大ナラシムル目的ヲ以テスル改良裝置ハ昨年全ク試験ヲ終リ之ヲ採用スルニ決ス此改良案ニ基キ新調シツ、アル輕砲及機砲用ノ砲架ハ一分時ニ三若クハ四發ノ射擊速度ヲ與フル者トス

沿黑龍軍管ノ砲兵中隊及彈藥縱列用四輪彈藥車ノ代リニ一馬引彈

藥車ヲ用ユルコトヲ採決セラル是レ該地方ノ粗惡道路上ノ行動ニ適便ナラシムルカ爲ニシテ斯ノ如キ二輪車四輛ヲ以テ一彈藥車ノ積載量ヲ搬送シ得ル者ナリ而シテ此計畫ニ基キ案出セル諸種ノ二輪車ヲ試驗ノ爲メ同軍管ニ送附セシメタリ各堡壘間ノ地帯ヲ防禦センカ爲メ數年來數種ノ速射砲ヲ試用セシモ其效果顯著ナラサルヲ以テ此地帯ノ遊動防禦トシテ前記將官エングリガルトノ改良ニ係ル輕野砲ヲ採用スルニ決ス又堡壘側方ノ穹窿上ノ兵備トシテ同制式ノ輕砲ニシテ大佐ドールラフェル式ノ固定砲架ヲ有スル者ヲ採用ス

本報告年期ニ於テ勅裁ヲ經テ守城砲ノ制式ニ六擗カネー式速射砲并ニ三厘口徑式マキシム機關砲ヲ加ヘタリ而シテ甲ハ一分時ニ二乃至四發ヲ射撃シ新創意ノ鐵飯ニ對シテ激烈ノ効力ヲ顯シ乙ハ一分時ニ四百乃至五百發ヲ射撃シ堡壘ノ強襲ニ對シテ非常ノ防遏力

ヲ與フヘシ又昨年中騎兵ニ機關砲ヲ試用セシメ本年モ此試用ヲ續ケシメントス

海岸砲臺用若クハ海軍用トシテ案出セララル、四十五口徑、重量千五百「ブート」ヲ有スル十擗鋼砲ノ鐵板侵徹力ハ敢テ重量二千六百「ブート」十一擗砲ニ讓ラス其試驗成績モ亦タ甚タ良好ナリ而シテ該鋼砲ノ砲架ハ爾他ノ海岸砲ノ者ト同制式ノ者ヲ採用スルコトニ決ス

砲彈ニメリニット火藥ヲ裝置スルノ研究ハ昨年全ク良成績ヲ得而シテ之ヲ應用センカ爲メ輕野砲ノ破壞彈、爆裂彈、野戰六擗白砲、及六擗砲(重量百二十「ブート」)ノ破壞彈並ニ海岸白砲(九擗及十一擗)ノ甲板射貫彈ノ諸形式ヲ審査シ終レリ

メリニット火藥ヲ輕野砲用砲彈、其他破壞彈(堡壘ヲ射撃スル爲メ)若クハ爆裂彈(軍隊ヲ射撃スル爲メ)ヲ裝置スルコトハ未タ全ク決了スルニ至ラス就中メリニット火藥ヲ甲板射貫彈ニ裝置シ砲彈の中ノ直際ニ

アラシテ少許侵徹后爆裂セシムルヲ要スル難問ハ幸ニ好結果ヲ得今ヤ此装置ヲ十一擲臼砲破壊彈ニ應用シメリニット藥八十「ブント」ヲ該砲彈ニ填實セリ而ノメリニット火藥ヲ砲彈ニ填實センカ爲目下「ラフタ」製藥所附近ニ一工場ノ築設中ナリ

昨年中十一擲及九擲海岸砲ノ腔中ニ於ケル無烟火藥燃燒力ノ感應ヲ試験シ該火藥ヲ同砲ニ採用スルコトニ確定ス而ノ此試験ノ結果ニヨレハ圓環ヲ砲口迄備裝スルキハ初速百五十「ブント」ヲ増加シ得ヘク然ラサレハ別ニ舊初速ト異ナルコトナシ

舊式守城砲ニ無烟火藥ヲ應用センカ爲メ其砲彈ノ鉛被ヲ銅帶ニ變換ス然ラサレハ無烟火藥ノ強盛ナル燃燒ノ爲メ鉛被モ亦タ燃燒シ去レハナリ

○豫備火藥 軍隊直屬ノ倉庫其他諸部ニ於テ收藏スル火藥ハ左ノ如シ

既製有烟火藥

精製硝石

硫 黃

鉛

絹糸製布

絹 糸

規 定 高

二、一四一、八一〇「ブント」

四〇〇、〇〇〇「ブント」

五〇、〇〇〇「ブント」

三四〇、〇〇〇「ブント」

三四八、〇〇〇「アルレン」

四八「ブント」

現 在 高

一、八四八、二五六「ブント」

五九、五八六「ブント」

六、二六九「ブント」

三八五、三四八「ブント」

二四七、二六八「アルレン」

三二「ブント」

斯ノ如クシテ舊式火藥ノ不足量ハ二十九萬三千五百「ブント」ニ達ス然レモ此内小銃火藥ノ不足量十五萬四千「ブント」ハ既ニ無烟火藥ノ現在高十五萬「ブント」ヲ以テ補足シ得又破裂用藥ノ不足量二十三萬九千「ブント」ハ克虜布拉藥ノ剩餘品及同藥ノ野戰砲兵ヨリ還納品(無烟火藥トノ交換)計十九萬四千「ブント」(本年ノ計算)ヲ以テ補足セラレ、コトヲ得ヘシ

ベルダン彈藥筒ノ剩餘ハ之レヲ分解シ其裝藥ヲ以テ必需ニ應シテ

他ノ有烟火藥ノ代用トナスコトヲ得ヘシ
 褐色稜形火藥ハ尙ホ九萬三千「ブート」ノ欠乏アリ然レモ黑色稜形火
 藥ノ剩餘八萬七千「ブート」ヲ有スルヲ以テ褐色藥ノ稍優良ナルヲ認
 ムルモ今後海岸砲兵ノ舊火藥ト褐色藥ノ交換ヲ行フコトナカルヘシ
 加之ナラス海岸砲ニ無烟火藥ヲ用ユルノ期モ近キニアルヲ以テ昨
 年既ニ褐色火藥ノ製造ヲ停止セリ
 有烟火藥ノ製造ニ供スル剝篤亞斯製ノ硝石並ニ硫黃ノ豫備ハ今後
 之ヲ補充スルコトナシ
 無烟火藥ノ所有高約左ノ如シ

	必 要 高	現 在 高
小銃用	一四四、五〇〇ブート	一五〇、〇〇〇ブート
野戰砲兵用	一一一、〇〇〇ブート	一一七、〇〇〇ブート
攻守城用	七三〇、〇〇〇ブート	一二七、五〇〇ブート
計	九八五、五〇〇ブート	三九四、五〇〇ブート

斯ノ如クシテ小銃及野砲用無烟火藥ハ既ニ必要高ヲ全備セリ然レ
 モ各年射擊演習ノ費消ヲ補足スルカ爲メ及攻守城他用ノ者ヲ完成
 スルカ爲ニハ尙ホ數年ヲ要スヘシ

第九章 工兵ノ部

工兵所管業務中主ナル者ハ西國境上ノ要塞構築、兵營及戰略道路(礮
 石)ノ設備尙ホ此外千八百九十三年ノ計畫ニ基ケル工兵團隊ノ擴張
 實施トス
 ○要塞 諸軍管ノ爲ニ構成セラレタル戰略籌策ニ依レハ要塞構築
 ノ爲メ經費千三十九萬四千留ヲ要ス然ルニ歲計定額中ヨリ六百二
 萬八千留ノ使用ヲ許サル、ニ過キス
 緊急ナル構築上ノ問題ヲ審定センカ爲メ陸軍省内ニ特別諮問會議
 ヲ開キ且該會議ニ西境諸要ノ工兵部長ヲモ出席セシメタリ而シテ該
 會議ノ議決スル處左ノ如シ

一、現今堡壘及砲臺ノ穹窿部ヲベトンニテ被覆スルノ改築工事ト共ニ堡壘間ノ間隔ニ對スル側方若クハ後方防禦ヲ編成スルノ必要ヲ感セリ然レモ若干堡壘ニ於テハ未タ此側方若クハ後方防禦ヲ編成シアラス此レ此改築ヲ第二期工事中ニ算シアレハナリ總テ堡壘構築上ニ關スル新要求ハ悉ク之レヲ設備シ得レモ唯カーポール内ニ充滿スル無烟火藥ノ瓦斯排除法ハ未タ明答ヲ得ス之レニ關スル試驗ハ本年ヲ以テ「クロンシタット」要塞ニ施行セントス

二、「コヴノ」府ニ於テ「ウヒリヤ」河ノ右岸上「リンコーヴスコエ」堡壘前ノ高地ニ將來防禦工事ヲ編成スヘキコトヲ決定ス

三、「ゼグルジ」堡壘ノ背後防禦ヲ完全ニスルカ爲メ「ウエニヤリノ」堡壘ニ新堡壘ヲ設置スルノ必要ヲ認ム又同堡壘ニ強襲ニ對抗スルノ目的ヲ以テ試驗ノ爲メ圓郭ヲ構造スルヲ決議ス

四、「セバストポール」港ニ於ケル陸方面ノ防禦工事ヲ廢止シ海岸砲臺

ニ全力ヲ盡スノ必要ヲ認ム是レ陸方面ニ於ケル臨時堡壘及之ヲ連絡スル對壕ハ著シキ効力ヲ顯サマルヲ信スルヲ以テナリ

五、「クロンスタット」要塞ニ將來ノ砂洲上ニ臼砲々臺並ニ北方水路、ラニエンバン」及「フィンランド」ノ兩陸方面ニ堡壘ヲ構築スルコトヲ決議ス尙ホ諸要塞(特ニ「イワンゴロド」)ニ於テ營舎、建物ノ不充分ナルコト及「ノ」ウヲケラルギエゲスク」要塞ニ於テ衛生上ノ改善ヲ計ルノ必要ニ關シ審査ヲ遂ケタリ而シテ要塞構築上ノ經費配用法ハ左記ノ如シ

堡壘	防禦上ノ建築費	防禦外ノ建築費	計
クロンシタット	二七五、〇〇〇	七五、〇〇〇	三五〇、〇〇〇
彼德堡		四七、五〇〇	四七、五〇〇
スベアボルグ	八〇、〇〇〇		八〇、〇〇〇
ヴエイボルグ		二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇

ドウヒンスク	二二、五〇〇	一八、五〇〇	一八、五〇〇
ポブルイスク	四二九、〇〇〇	五六、五〇〇	五六、五〇〇
ウスイチドウヒンスク	四二九、〇〇〇	四七、〇〇〇	六九、五〇〇
コヴノ	七二九、〇〇〇	一二三、〇〇〇	五五二、〇〇〇
リバワ	一七九、〇〇〇	一六七、〇〇〇	八九四、〇〇〇
ヲソウゲエツツ	一五〇、五〇〇	二一、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
ワルシヤヲ	四一〇、〇〇〇	七八、〇〇〇	二二八、〇〇〇
ノウラゲヲルギエヴスク	六〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇
ゼグルチ	二二五、〇〇〇	一九三、〇〇〇	二五三、〇〇〇
ウヒスロ、カレールヴスキ 集屯所	三四二、〇〇〇	一二二、〇〇〇	二二五、〇〇〇
イワンゴード	六八、〇〇〇	三一、五〇〇	四六四、〇〇〇
ブレストリトウヴスク	四〇、〇〇〇	七三、〇〇〇	九九、五〇〇
キイエフ		二五、〇〇〇	七三、〇〇〇
ドーブノ			六五、〇〇〇

ケルチ	三二二、〇〇〇		三二二、〇〇〇
セバトラポリ	二二二、〇〇〇	八二、〇〇〇	二九四、〇〇〇
ヲチャコヴ	八、〇〇〇	二五、〇〇〇	三三、〇〇〇
カルス	六〇、〇〇〇	一一三、〇〇〇	一七三、〇〇〇
ミハイロヴスカヤ	二六、〇〇〇	四六、〇〇〇	七二、〇〇〇
浦鹽斯德	一五〇、〇〇〇	一七四、〇〇〇	三二四、〇〇〇
防禦用墻柵等	七五、〇〇〇		七五、〇〇〇
電信及電話線	五〇、〇〇〇		五〇、〇〇〇
河岸ノ構築 <small>(ワルシヤヲ軍管内)</small>	三〇、〇〇〇		三〇、〇〇〇
地區ノ掃除事務費其他	五八九、〇〇〇		五八九、〇〇〇
計	四、二四〇、〇〇〇	一、七八八、〇〇〇	六、〇二八、〇〇〇

「コヴノ」要塞ノ構築費中五万留ヲ減セラレ「ブレストリト」ト「ヴス
ク」市ノ大火災ニヨリ蕩燼セル兵營ヲ建築センカ爲メナリ又同目的

ノ爲メ豫備費中ヨリ十八万留ヲ支出セリ(此外諸種ノ要求ニ對シ尙ホ全費中ヨリ九万二千五百留ヲ支出ス)

昨年沿黒龍軍管ノ防禦編成ヲ増加センカ爲メ特別費中ヨリ支出セル者次ノ如シ即チ浦鹽斯德ノ防備ノ爲メ十九万留、黒龍河口ノ背後ノ防禦ノ爲メ三万留及鐵條抗ノ準備ノ爲メ五千留、計二十二万五千留トス

以上ニ指示スル各要塞ノ配當費ヲ一目スレハ最大費額ヲ要スル者ハ西境ノ諸要塞并ニ「クロンシタツト」「リバワ」「セバストヲポリ」及浦鹽斯德トス

浦鹽斯德及「セバストヲポリ」ニ要塞ハ三等ヨリ二等ニ階級ヲ進メラレ「ケルチ」要塞ハ二等ヨリ三等ニ降級セラレ又「ボブルトイスク」要塞ハ廢除ニ決定セリ

本報告年期ニ於テ特ニ著シク防備ヲ倍蕪スル者ハ「リバワ」及浦鹽斯

德トス該二要塞ハ目下尙ホ増築中ニシテ其完成期ハ尙ホ遼遠ナル者ナリ

「リバワ」軍港ノ堡壘及砲臺ハ其南方ノ一堡壘、及二臼砲々臺ヲ除クノ外悉ク建築ニ着手シ其若干砲臺ハ殆ント備砲シ得ルカ如ク完成セリ而シテ本年首迄ノ該建築費ハ百八十万二千留ニシテ其防禦的及非防禦的工作ノ總價額ハ實ニ千五百万留ニ達セリ浦鹽斯德要塞ハ昨年絶東ノ紛紜ニヨリ大ニ其防備ヲ倍蕪セリ即チ現今該要塞ノ陸方面ハ(堡壘假令臨時ノ惡シキ斷面ナルモ)ヲ以テ圍繞セラレ其海正面ノ若干砲臺ハ既ニ擲射ニ對シ掩蔽セル火藥庫ヲ備ヒ并ニ戍兵ノ爲メニハ盲蔽ヲ有ス且ツ要塞外ニ電線網ヲ以テ連通スル地雷ノ障害ヲ設ク「浦鹽斯德」要塞ノ構築ノ爲メ今日迄總計八十萬二千留ヲ費セリト雖モ尙ホ甚タ薄弱ナルヲ免レス沿黒龍軍管司令官ノ考案ニヨレハ該要塞ニ處望ノ強度ヲ與ント欲セハ其築設計畫ノ如何ニヨリ尙

ホ千二百萬乃至二千五百萬留ヲ要スヘシト然レモ裁可濟ノ千八百九十六乃至千九百年間ニ於ケル沿黒龍軍管ノ戰備擴張計畫ニヨレハ浦鹽斯德防禦増設ノ爲メ三百萬留ヲ支出スルカ如ク規定セラル者トス而シテ浦鹽斯德ノ堡壘建設ニ關シテハ未タ確定ノ者ナキヲ以テ現ニ臨時築設ノ砲臺ヲ永久ノ者ニ改築スルヲ、火藥庫及戍兵ヲ擲射ニ對シ遮蔽スルヲ并ニ露西亞山ニ強力ナル獨立堡ヲ構築スルヲニ工事ヲ限レリ

自他ノ諸要塞ニ於ケル重ナル工作ハ左ノ如シ

「ワルシヤ」ニ在テハ「ウヒスラ」左岸ニ於ケル堡壘ノ築造ヲ續行ス

「ウヒスロ、カレ、ヴスキ」集屯所^{ブラズダルム}ニ於テハ「ワウエル」及「カウエンチン」堡壘ノ築造ヲ完備シ尙ホ鐵路及尋常道路ノ開設ヲ續行ス

「ノウヲゲ」ヲ「ギエウスク」要塞ニ於テハ堡壘及火藥庫ノ改造ヲ續行シ尙ホ要塞ノ改修ニ着手セリ

「ゼグルヂ」要塞ニ於テハ穹窿建設ヲ終リ且ツ地形ヲ平坦ニスルノ作業ヲナス

「イワンゴロト」要塞ニ於テハ堡壘ノ改築ヲ續行シ且ツ豫備火藥庫(八千留ノ建築費)及不足兵舎ノ建設ニ着手ス

「アレストリト」ヲ「ヴスク」要塞ニ於テハ火藥庫ノ建築及ヒ水害ニヨリ大破セル要塞地區ノ道路修繕ヲ完成シ且ツ歩兵二大隊ノ兵營建築ニ着手ス

「ラソウエツト」要塞ニ於テハ堡壘ノ改築、外岸巡路礮石道ノ設備ヲナス

「コウノ」要塞ニハ要塞附寺院ヲ竣工シ尙ホ堡壘ノ改築、中央堡壘、「ウヒリヤ」「ニエメン」兩河間地ノ障壁及ヒ「ベトン」製火藥庫ノ新設ヲ續行ス

「ウスチドウヒンスク」要塞ニ於テ補給火藥庫ヲ「ベトン」製ニ改築セリ

不明ナリ

「ドーヴ」ノ要塞ニ於テ穹窿内部ノ工作ヲ終リ電氣燈明ヲ設ケ且ツ補給火藥庫ノ新築ニ着手ス

「クロンシタツ」要塞ニ於テハ砂洲上ニ臼砲々臺ヲ新設シ且略二火藥庫ヲ竣成ス此外塔下ノ「ベトン」製基礎ニ着手シ南方水路ニ「リヤセヴィ、モーラン」ノ建築ヲ續行ス

「ヌウエアボルグ」要塞ニ於テハ墜道内ノ火藥庫建築ヲ續行ス

「セバスト」ヲ「ポリ」要塞ニ於テハ海岸砲臺ノ建築ヲ繼續シ且ツ「アルチル」レーリスカヤ「灣」ノ石造埠頭ノ新築ヲ開始ス

「カルス」要塞ニ於テハ「フアデーエヴ」堡ニ穹窿構造ノ兵舎ヲ竣成シ尙ホ堡壘間ヲ連絡スル塹溝及墜道内ノ安全兵舎ノ建設ヲ繼續ス

「ミハイロヴ」スカヤ「要塞」ニ於テハ堡壘改築ヲ續行ス

「コーヴ」ノ「及」セバスト「ヲ」ポリ「ニ」要塞ニ於テハ狹軌鐵道ノ試験ヲ爲シ尙ホ本年之ヲ續行セントス

本年各軍管司令官ハ要塞工事ノ緊急止ヲ得サル者ノ爲メニ千八百萬留ノ支出ヲ要求セリ然レモ歲計定額金ノ許セル範圍内ニ於テ七百二十八萬二千留ノ配用ヲ得タリ

現今要塞ノ建築工事ハ數種ノ法則ニ適準シテ之ヲ施行ス即チ十一要塞「(「コーヴ」ノ「ヲ」ソウエツツ「ワ」ルシヤヲ「ノ」ウラゲルギエヴスク「セ」グルヂ「イ」ワンゴ「ー」ロド「ド」ー「ブ」ノ「リ」バワ「ク」ロンシタツト「セ」バスト「ヲ」ポリ「カ」ルス」)ニ於テハ建築監理會議ト検査官ノ工事臨檢トニヨリ建築業務ヲ進捗セシメ其他ノ要塞ニ於テハ要塞修理會議ニテ検査官ノ臨見ヲ要セスシテ執務スルカ若クハ受負委託或ハ競争委託法ニヨル者トス

斯ノ如キ建築手續ハ正當ナル者ニアラス特ニ若干要塞ニ於テハ同時ニ二法ヲ用或ハ検査官ノ臨檢ヲ經或ハ全ク之ヲ經由セサル者アリ故ニ現時要塞建築規則考案ヲ編成シ之ヲ法律ト制定スルニ先チ

帝國検査院ノ審議ニ付セリ

沿黒龍軍管ニ於ケル戰備擴張ニ要スル建築工事ノ重大ニシテ且ツ期限ノ局定スルトニ對シ同軍管司令官ノ管理下ニ新ニ臨時建築管理會議ヲ置キ迅速ニ諸種ノ問題ヲ決定シテ澁滞ノ憂ナカラシム而シテ該會議ハ千八百九十四年解散ニ付セル西境防禦工事ノ管理會議ト同權限ヲ有スル者ナリ昨年中要塞防禦計畫構成ノ教令ヲ編成シ且ツ之ヲ發布セリ又目今要塞司令部條例ヲ校閲ト要塞ニ於ケル各種ノ檢視及教育檢閱條令ノ編成ニ着手ス

○戰略道路 千八百八十九年來兵營建築會議ノ監理下ニ在テ遞信省ノ出費ヲ以テスル西境諸縣ノ戰略道路ノ建築ハ昨年亦タ之ヲ續行ス從來該道路ノ竣成シ且ツ遞信省ニ交付セラレタル者ハ總計九百九十露里ニ及又昨年ノ建築ニシテ同省ニ交付セシ者八區ノ道路計二百六十九露里トス此外十二區ノ道路計六百二十二露里ハ目下

着手中ニシテ其半ハ本年ヲ以テ竣工ヲ告クナラン尙又路線探究中ノ者七線(第七期)ノ者ニシテ其全長二百六十二露里ニ及ヒ其建築ハ本年ヲ以テ着手スヘシ而シテ該道路建築ノ爲メ支出セル金額ハ昨年ハ二百四十萬留ニシテ本年モ亦同額ノ支出トス(千八百八十九年ヨリ九十五年ノ全經費千七百六十二萬五千留トス)

○軍事建物 本報告年期中要塞外ニ於ケル新築若クハ改築建物ノ爲メ五百九萬二千留ヲ支出ス其内五十二萬八千留ハ監督部所屬ノ技術部ノ爲メ三十四萬留ハ「レムベルトヴスキ」砲兵射的場地所購求及非建築的ノ費用トス

前記ノ支出額ヲ以テ經營セラレタル重ナル建築ハ左ノ如シ即チ彼得堡ニ於テハ皇后陛下ノ近衛騎兵聯隊兵營ノ改築ブレヲアラゼンスキ―近衛歩兵聯隊及近衛騎砲兵聯隊ノ兩將校集會所ノ新築并ニセミヲ―ノヴスキ―近衛歩兵聯隊ノ將校官舎ノ改築ヲ續行シ尙ホ

ソリンニチエスキ―病院用傳染病室、神經病室、并ニニコラエヴスキ
 一病院用神經病室ノ建築ニ着手シ且ツ工兵士官學校ノ内部ノ建築
 ヲ完成ス又「ガツチナ」府ニ於テハ皇后陛下ノ胸甲騎兵聯隊營ノ改築、
 「ワルシヤ」モスコウニ「ヲデツサ」及「タシケン」ニ於テ病院ノ増築、「チ
 フリス」ニ於テ陸軍寺院及高加索第二工兵大隊營ノ新設、「ハミロフ
 カ」ニ於テハ后具加爾哈薩克騎兵第一聯隊及砲兵一中隊分ノ兵營ノ
 新設、「ノウヲキ―エヴスコエ」小村ニ於テハ地方病院用屋舎ノ新設
 ニ従事ス
 此外豫備費ノ支出ニヨリ經營セラレタル者ハ即チ「ツアルスコエ、セ
 ロ」ニ於ケル陛下禁衛特別部隊及近衛混成大隊用營舎ノ新設并ニコ
 ンスタンチンスコエ及ミハイロヴスコエ二砲兵士官學校ノ改築工
 事トス

勅命ニ依リ國庫ノ支出ヲ以テ昨年彼德堡ニ於テ全軍將校集會所ノ

建築ニ着手ス

軍事參議會ニ付屬スル裁定ノ兵營建築會議ハ昨年五地區ノ建築ヲ
 終リ之レヲ工兵部ニ交付セリ尙ホ九地區ノ建築ハ本年秋ヲ以テ完
 成シ且ツ交付セラレントス該十四地區ニ包有スル兵營ハ步兵第七
 聯隊、龍騎兵三聯隊、地方狙擊一大隊、砲兵五聯隊、及輕彈藥一縱列分
 トス此外八地區ニ於テ步兵五聯隊、龍騎兵二聯隊、砲兵三聯隊分ヲ建設
 ス

今日迄該建築會議ノ建築ニ着手シ若クハ其既ニ軍隊ノ占居スル兵
 營ハ計步兵四十四聯隊、豫備步兵八聯隊、狙擊八聯隊、龍騎兵十一聯
 隊、獨立十步兵大隊、砲兵十四聯隊、及輕彈藥一縱列分トス
 本報告年期ニ於テ右兵營建築トシテ三百二十六萬三千留ヲ支出セ
 ラレ本年度ニ於テモ又軍ノ大部ニ完全ノ營舎ヲ供給スルノ急務ナ
 ルヲ感得スルト雖モ僅ニ二百七十五萬留ノ支出ヲ得ルニ過キス

○工兵諸隊 千八百九十三年ノ工兵擴張計畫ハ其翌年度ヨリ之レカ實施ニ着手セルハ昨年ノ奏聞中ニ詳説セリ而シテ昨年該計畫ニ準據シテ「ワルシヤ」ニ新ニ鐵道大隊及「コーヴ」ニ軍用瀛球隊一ヲ編組ス然レモ該鐵道大隊ノ要員ハ極東ノ事變ニヨリ烏蘇里鐵道第一大隊ノ編成トシテ差遣セラレ、ヲ以テ其新要員ハ千八百九十八年以後ニアラサレハ準備スルヲ得サルヘシ又昨年東部西伯里工兵中隊ヲ擴張シテ工兵二中隊及電信一中隊(電信中隊ハ強度ノ編成ニシテ電線二百露里ヲ有スル者)ヨリナル工兵大隊ヲ新設ス但シ今后該大隊ノ編成ヲ完備センカ爲メ尙ホ工兵一中隊ヲ増加スルヲ要スル者ナリ

本年ニ於ケル千八百九十三年計畫ノ續行ハ即チ現時工兵二十三大隊中ノ空欠ナル電信六中隊ヲ補成スルヲ后裏海工兵中隊ヲ大隊編成ニ擴張スルヲ、「セバストウボル」「カルス」及浦鹽斯德ニ要塞電信隊

ヲ新設スルヲ并ニ「ワルシヤ」ニ軍用瀛球隊ヲ新設スルヲトス其本年以後ニ於ケル擴張順序ハ即チ千八百九十七年度ニ於テハ工兵第二十二及第二十一大隊ヲ新設スルヲ、土耳其斯坦工兵半大隊ヲ大隊ニ擴張スルヲ并ニ「リバ」軍港ニ要塞電信隊及「プレストリト」ブスクニ軍用瀛球隊ヲ新設スルヲトス又千八百九十八年度ニ於テハ「リバ」軍港ニ要塞水雷中隊及軍用瀛球隊ヲ新設スルヲ并ニ新規則ニ從テ野戰工具縱列ヲ改編スルヲトス

極東ノ事變ハ千八百九十三年ノ工兵擴張計畫以外ニ於テ更ニ沿黑龍軍管ノ工兵増加ノ處置ヲ採ラシムルヲ次ノ如シ即チ昨年ニ於テハ前記烏蘇利工兵第一大隊ヲ編成ス又本年度ニ於テハ浦鹽斯德要塞工兵隊ヲ並ニ明年度ニ於テ「ボシエツト」及黑龍江口ニ配置セラレ、小編組ノ水雷中隊二ヲ新設スルヲトス

昨年復タ沿黑龍軍管ニ永久電信線ノ第二次發送ノ二百五十露里、十

萬人分ノ軍用工具費及水(地)雷用ニ供スルピロクシリン藥劑千「ブ」ト「ラ」差遣セリ

一般ニ鐵道大隊ハ建築、運用ノ二部ニ分ツノ主義ヲ廢シ爾後同大隊ノ全部ヲシテ悉ク建築運用ニ通曉セシムルノ組織ヲ取レリ

戰時軍ニ確實ノ給養ヲ得セシムルノ手段トシテ就中時機ニ應シ神速ニ架設シ得ル野戰鐵道材料ヲ有スルヲ必要トス我隣邦諸軍ニ於テハ既ニ斯ノ如キ鐵道材料ノ著大ナル豫備ヲ有ス我軍ニハ斯ノ如キ鐵道材料ヲ準備スルハ最モ緊急ノ「コ」ニシテ鐵道網ノ稀疎ナル我國ニ於テハ特ニ其切要ナルヲ感スヘシ

近年要塞鐵道ノ試用ヲ實行シ既ニ該鐵道ニ要スル制式ヲ考定シ得ルト全時ニ野戰鐵道ニ要スル制式等ヲ考證スルヲ得タリ而シテ野戰鐵道ノ建設、構成及運用ハ全ク一種特別ノ智識ヲ要スルヲ以テ豫シメ夥多ノ材料ヲ準備シ充全ノ試驗ヲナシ其材料ノ構造、人員ノ編組

ニ關シ最良ノ實驗訓練ヲ得ルノ必要ヲ認メ本年一月三十日ノ勅裁ニヨリ野戰鐵道材料八十乃至百露里ヲ準備シ本秋期「リ」エブリンスク「縣」地方ニ實地布設ノ試驗ヲ行ハントス又該材料ノ準備及實地經費トシテ百十萬留ノ支出ヲ得尙又諸業務ノ統督トシテ參謀本部ノボゴリユボグ中將之ニ任シ且ツ勅許ヲ經テ同中將ニ技術、經理ノ兩務ヲ專任セリ而シテ本試驗ニ就カンカ爲メ鐵道大隊一、電信中隊一、及第十四軍團ノ混成作業旅團ヲ參加セシメントス

第十章 哈薩克軍ノ部

○司政ノ部 陸軍省ハ昨年モ亦タ前諸年ノ如ク哈薩克生活上ノ改良、其組織及行政上ノ安固ニ關シ常ニ注意ヲ怠タラサリシ

哈薩克生活上ノ狀体ハ昨年ハ一般ニ前諸年ニ比シ大ニ良効果ヲ得タリ是レ收獲ノ豊富ナルト流行病及馬疫ノ停止トニ依ル者ナリ

陛下大婚ノ日ニ於ケル勅詔ニヨリ哈薩克民族ノ糧餉借資ノ半額ヲ

免除セラレタルハ昨年奏聞中ニ記上スル所ナリ
哈薩克民族ノ借資ニ關スル諸報告ニヨレハ其總額左ノ如シ

借資合計	其内軍隊資金ニ屬スル者
ドン 哈薩克軍	一、六〇〇、〇〇〇
ヲレンブル 哈薩克軍	五四七、〇〇〇
西伯里 哈薩克軍	一四二、〇〇〇
烏刺爾 哈薩克軍	四七、〇〇〇
アストラハン 哈薩克軍	二二、〇〇〇
計	二、三五八、〇〇〇
	三、三七六、〇〇〇

右總借資ノ半額即チ百六十八萬八千留ヲ免除セラレ殘餘ノ半額ハ
軍隊資金充足ノ爲メ哈薩克民族ヨリ收納スヘキ者トス然レモ此半
額ヲ以テ悉ク軍隊資金ヲ充スニ足ラサルヲ以テ其不足額六十七萬
留ハ國庫ヨリ辨償スル者トス

哈薩克備荒儲蓄糧麥ハ千八百九十一年及九十二年凶歉ニ悉ク之ヲ
費消シ盡クセリ昨年哈薩克各軍司令官ハ速ニ此儲蓄糧麥ノ規定額
ヲ集積スルノ區處ヲ取リ一人ニ付キ一「チエトウエルチ」(半)同年末ニ
於テ一般ニ著ク集積額ヲ増加シ特ニ其「セミレ」チンスク及「アスト
ラハン」軍民族ハ規定額以上ヲ集積シ得其他ノ各軍民族ニ於テハ百
分ノ四十五乃至七十二ヲ集積シ得タリ
近年馬疫ノ流行ハ哈薩克軍ノ主力ナル「ドン」及高加索ヲ侵害セリ然
レモ昨年「ドン」洲ニ於テハ毒勢全ク消滅シ「クバン」及「テルス」州ニ於テ
ハ薄弱ナル餘焰ヲ見ルノミ而シテ馬疫撲滅ノ實驗ニ徹セハ馬疫若ク
ハ傳染諸病ニ論ナク常ニ絶ヘス嚴密ノ檢視ヲ施シ病症ノ徵徴若ク
ハ初發ニ於テ豫防法ヲ施スニアリ此目的ヲ以テ「ドン」州ヲ五十七區
ニ「クバン」州ヲ四十區ニ「テルス」州ヲ三十二區ニ分割シ各區ニ獸醫
ヲ置クコトヲ規定ス此規定ノ發布ニ先チ「ドン」州ニ於テハ昨年既ニ

獸醫二十七名ヲ聘シ且ツ「ノーチエルカスク」府ニ獸醫ノ研究ニ資スル爲メ並ニ家畜ノ種毒貯蓄ノ爲メ黴菌研究所ヲ建設ス

烏刺爾軍ニ於テ昨年中激烈ナル偶爾謨症流行スルヲ以テ馬匹細密診斷ヲ行ヘ染毒ノ馬匹ヲ撲殺スルニ規定ス然レモ馬主之カ賣渡ヲ拒ムルハ離隔法ヲ行ハシメタリ而シテ馬匹十萬六千二百八十六頭ヲ臨檢シ五百八十一頭ノ病馬ヲ發見シ其内五百七十七頭ハ馬主ノ賣渡(總計一萬三千留)ニヨリ之ヲ撲殺シ殘餘ノ四頭ハ離隔法ヲ施セリ

昨年哈薩克軍民族ノ組織及行政ヲ改善スルノ目的ヲ以テ施設スル事項中特ニ左ノ事實ヲ列舉セサルヲ得ス

一、哈薩克兵村管理法ヲ后具加爾州ノ「ブリヤタ」民種ニ應用セシメ尙ホ該法ヲ地方ノ要求ニ適準スルカ如ク修正ヲ施シテ之ヲ烏刺爾軍ニ施行センコトヲ詮議シツ、アリ

二、哈薩克民ニシテ兵役ニ就カサル者ノ不動産所有權即チ斯ノ如キ權限ヲ得ント欲セハ兵村會議ノ允許ヲ得ヘキコトヲ査定ス

三、新定市制(千八百九十二年)ヲ本年首ヨリ「ノウウヲロシースキー」、「アナツバ」、「ゲラルギエフスク」及「グロイズノ」ニ布クコトヲ決定ス

四、「ロストヴナ、ドン」府ニ長徑九百「サアセン」ニシテ價格百九十萬留ヲ有スル河岸石道ヲ建築スルコトヲ許可ス但シ此經費トシテ地方ノ半哥徵稅ニ充テ而シ若シ或ハ不足ヲ感スルキハ百萬留ヨリ多カラサル公債ヲ起スコトヲ免許ス

五、烏刺爾哈薩克軍司令長官ノ昨年ノ申報ニヨレハ同官ハ千八百九十四年末ヲ以テ特別検査官ヲ派シ軍經濟部、其第一、第二部、十七兵村管理部及烏刺爾州軍司令部ノ徵兵ヲ巡檢セシメ其視察ノ結果ニ依レハ諸機關ノ編成不完全ナルヲ、兵農法ノ老朽ナルヲ、諸義務履行特ニ保護兵役法、不利益ナル者アリトナセリ此驚動スヘキ重要ナル問

題ニ對シ再ヒ同司令官ノ説明及考慮ヲ請求シ置ケリ
 哈薩克軍州ノ千八百九十六年ノ歲計ハ概シテ歲出超過ヲ示セル者
 少シ特ニ甚愉快ヲ感スルハ「グバン」軍ノ歲計上歲入ノ歲出ヲ超過ス
 ル「二十萬留ナルニアリ其他「ドン」烏刺爾及「テルス」軍ニ於テハ少
 許ナリト雖モ皆剩餘歲入ヲ得タリ「ラレンブルグ」軍ニ在テハ歲入
 不足額一萬五百留及后具加爾軍ニ在テハ不足額二萬二千五百留ヲ
 生スルヲ以テ之ヲ國庫ヨリ補足セシメタリ
 「ラレンブルグ」軍ハ大凶歉ト屢次ノ火災ニヨリ歲入ヲ收納スルノ
 餘裕ナク之カ爲メ國議院ハ其經濟機能ヲ興復スルノ目的ヲ以テ向
 后六年間同軍ノ郵便事務及行政機關ニ供給スル經費中六萬留ヲ省
 除スル「ヲ承認シ同期限中ニ於テ該軍ノ財務及ヒ經濟ニ關スル事
 項ヲ充分ニ判明シ得セシメントス
 后具加爾軍ニ於テモ亦逐年歲入ヲ減少セリ是レ主トシテ舊法ニヨリ勤

務免除ノ哈薩克民ヨリ收納スル賦稅ノ漸次減少スルニ依ル之レカ
 爲メ國議院ハ同軍ニ各年一萬九千留ノ保助金ヲ與フル「ヲ承認ス」
 「テルス」軍ニ於テハ昨年軍事參議會ノ決定スル法則ニ準シ其天然石
 油泉ヲ競爭借渡ニ付セリ該借渡ハ全ク其結果ヲ得今日迄各年借渡
 料一萬五千留ヲ得ルニ反シ昨年ノ借渡法ニ依テ借主ハ其石油收穫
 高ニ應シ課金ヲ拂フノ約ニシテ各年約十萬六千留以上ヲ收納スル
 ノ見込ナリ
 ○軍隊ノ部 哈薩克軍ハ本報告年期ニ於テ其一部ハ既ニ編制改良
 及戰備増擴ニ着手セリ
 千八百九十六年一月一日ニ於ケル哈薩克軍ノ團隊及地方部隊ノ平
 時編成ハ左ノ如シ
 將官及佐官、尉官 二千七百二十八名
 軍部付文官 二百五十七名

下士卒

六萬五千七百四十四名

馬匹

五萬四千百十五頭

之レヲ本報告年首ノ實員ニ比スレハ更ニ増加スルヲ將校三十二名、
 文官二名、下士卒九百六十三名及馬千三百十八頭トス
 昨年新ニ「ドン」獨立第四中隊ヲ編成シ尙ホ千八百九十七及九十八年
 ニ於テ更ニ二中隊ヲ新設セントス
 「クバン」哈薩克軍ノ黑海第一聯隊ハ千八百九十五乃至九十八年間ニ
 於テ四中隊ヨリ六中隊ニ擴織セントス
 「ラムスク」軍管ヲ配置スル哈薩克軍(西伯里聯隊三、及「セミ」バラチンス
 ク「軍」一聯隊)ハ昨年ヨリ之ヲ旅團ニ編成セリ又土耳其斯坦ニ屯在
 スル哈薩克軍(「ラレンブルグ」三聯隊、烏刺爾一聯隊、及「アストラハン」二
 中隊)モ亦タ旅團編成ヲ取ラシムルヲ計畫セシメタリ
 昨年ノ奏聞中ニ陳上セシカ如ク「アストラハン」軍民族ノ散居セルニ

ヨリ其戰時編成ヲ改正スルヲ次ノ如シ即チ歸休兵ヲ以テ數種ノ聯
 隊ヲ編成スルヲ廢シ戰時第一次聯隊ノ二中隊(此聯隊ノ他ノ二中
 隊ハ土耳其斯坦ニ駐屯シ戰時モ亦全處ニアルヘシ)及第二次編成ノ
 四中隊ヲ以テ混成聯隊一ヲ編組シ第三次ノ四中隊ハ地方守備ノ爲
 メ殘留スルニ在リ此改正案ハ昨年裁可ヲ經タル者ナリ
 哈薩克勤務規則戰時豫備役者ノ編成法及國民軍ノ設立法ナキヲ以
 テ特ニ之レニ關スル法令ヲ審査シ即チ歐露及高加索ノ哈薩克豫備
 兵ヲ以テ第四次ノ聯隊ヲ編成シ且ツ退役兵ニシテ四十三歳以下ノ
 者ヲ以テ國民軍聯隊(一般國民役ノ第一次及第二次ニ相當スル者)ヲ
 編組セシムルニアリ

哈薩克歸休將校(此ノ如キ將校ヲ有スルハ目下「ドン」「ラレンブルグ」
 及烏刺爾軍ノミトス)ノ生活状態ハ甚タ良好ナラス故ニ之ヲ救濟ス
 ルカ爲メ歸休將校ニ撰擧ヲ以テ兵村長ニ推擇セラレ、ノ權限ヲ與

へ其固有ノ軍務ヲ果スト同時ニ兵村業務ニ從事セシメ歸休俸給ヲ受クルノ外兵村長ノ報酬ヲ獲セシメンコトヲ規定セントス而シテ該任用法ハ既ニ實驗ニ付セラレ此種ノ將校ハ實ニ良兵村長ナルコトヲ示證セリ

現時哈薩克第三次歸休兵ハ平時乘馬保有ノ責任ナキヲ以テ戰時動員ニ當リ乘馬收得ニ大困難ヲ感セサルヲ得ス之カ爲メ各兵村ニ特別軍馬資金ナル者ヲ設ケ第三次歸休兵(乘馬所有者若クハ之レカ購求ニ供スル資金ヲ收納スル者ヲ除ク)ヨリ徵稅ヲ爲サンコトヲ考案ス此外「ドン」クバン」及「テルス」三州并ニ「ヲレンブルグ」哈薩克民族ニ軍馬徵集令ヲ布クコトモ亦考案中ナリ

沿黑龍軍管ニ於テ騎兵擴張ノ目的ヲ以テ作年黑龍步兵半大隊ヲ騎兵大隊ニ改編スルコトニ着手ス而シテ改編騎兵ノ第一次中隊(一)ハ平時沿黑龍第一聯隊中ニ編入シ戰時ハ該第一次中隊ト歸休二中隊ヲ以

テ獨立騎兵大隊ヲ編成スル者トス

又騎兵増加ノ同目的ヲ以テ既ニ后具加爾ノ步兵六大隊(第一次ノ二大隊歸休ノ四大隊)ヲ四年間ニ於テ六中隊編成ノ騎兵六聯隊ニ改編スルノ裁可ヲ得タリ然レモ未タ此改編ニ關スル詳報ヲ得サルヲ以テ該改編軍隊ハ法律上成立スル者トナスコトヲ得ス、沿黑龍軍管ノ動員ニ際シ悉ク同軍管哈薩克歸休兵ヲ召集シ而シテ全部共ニ動員計畫ノ豫定期ニ先ツコト若干日前ニ集合ヲ終レリ又黑龍步兵半大隊ハ既ニ騎兵改編ニ着手セシモ然レモ未タ馬鞍ヲ全受セサルニヨリ步兵編成ヲ以テ動員ニ就ケリ而シテ復員令ト共ニ該歸休兵ハ悉ク解隊セラレタリ

將來ノ擴張ニ利用スルカ爲メ烏蘇里哈薩克大隊(一)ノ輜重要員及其馬匹ヲ其戰時編成ノ儘ニ現存セシメ尙ホ后具加爾砲兵二中隊ヲシテ砲六門、彈藥車三輛ノ編成ヲ保タシメタリ

沿黒龍軍管ノ兵カ増加ノ爲メ昨年後具加爾騎兵第二聯隊ヲ四中隊編成ヨリ六中隊ニ擴張シ今后尙ホ依然其六中隊編成ヲ持續セシムヘシ又タ「チルチンスク」金鑛採掘ノ監視ニ任スル后具加爾步兵第二大隊ヲシテ遊動組織ヲ取ラシム而シテ該大隊ハ四中隊編成ヲ取り其第五中隊ハ哈薩克歸休四百名ノ補充ヲ受ケ金鑛監視ニ殘留セリ尙ホ國議院ハ昨年七月ヲ以テ金鑛監視ノ爲メ内務省ヲシテ將來正規ノ部隊ヲ編成セシムルノ計畫ニ付裁可ヲ得タリ而シテ該監視隊ノ成立スル迄后具加爾步兵第二大隊ハ該金鑛ノ監視ニ任スル者トス

哈薩克諸隊ノ動員ノ爲メ后具加爾哈薩克軍ニ於テハ六萬六百五十留、烏蘇里哈薩克軍ハ八千留ヲ支出セリ

○哈薩克民族ノ黒龍地方ニ移住 「ドン」及「ヲレンブルグ」哈薩克民族中ノ烏蘇利鐵道線路付近ニ移住希望者ノ爲メニ區處及準備ヲナセシ「ハ」昨年ノ奏聞中ニ陳上スル處ナリ而シテ昨年中「ドン」ノ百三十三

家族及「キレンブルグ」ノ五十家族ハ千八百九十三年西伯里鐵道會議ノ支出セル三十三萬留ノ經費ヲ以テ移住セリ

「ヲレンブルグ」移住民ハ到着后猶豫ナク分領地ニ就キ殖拓業務ニ從事シ其氣候、風土共ニ郷里ヨリモ優尙ナルヲ認メタリ而シテ「ドン」移住民モ其大部ハ直ニ業務ニ就キシモ内十家族ハ殖拓困難ナルヲ以テ倦厭シ他ハ二十五家族ト連合シテ其分領地ノ豫告ヨリモ其疲瘁ナルヲ以テ移住ヲ欲セサルヲ主張セリ

沿黒龍哈薩克首長司令官ハ斯ノ如キ抗拒ハ移住勞苦ノ忌避ニ基クヲ以テ不平家族ハ移住諸般ノ消費ヲ辨償シ然ル后自辨ヲ以テ歸航シ得ルヲ公布セリ且ツ同官ハ斯ノ如キ所爲ハ新移住民中ニ騷擾ヲ引起スルノミナルヲ以テ消費辨償ノ后ニアラサレハ更ニ其歸郷ヲ承認セサリキ

然レモ前記「ドン」家族ハ頑執シテ屈セス更ニ消費辨償ノ資力ナキニ

ヨリ國庫ノ費用ヲ以テ歸郷センコトヲ地方長官ヲ經テ哈薩克全軍司令本部ニ提出シテ同全軍首長司令官殿下ノ決裁ヲ仰ケリ
此事件ニ關スル報告ニ對シ陛下ハ九月二十日ノ勅令ヲ以テ移住民ヲ其南烏蘇里ノ分領ニ抑留シ且ツ諸消費辨償後ハ隨意ニ歸郷セシムヘキコトヲ命セララル次テ沿黑龍哈薩克首長司令官ハ十一月九日付ヲ以テ不平等移住民ハ冬籠リ屋舎ヲ準備セル舊兵村ニ移住セルコトヲ電報セリ
昨年沿黑龍哈薩克首長司令官ハ「ドン」及「ヲレンブルグ」哈薩克軍ノ五十家族ヲ黑龍地方ニ移住セシメンコトヲ請求シ來レリ之レカ爲メ國庫ニ向テ十四萬四千留ノ支出ヲ求メ而シテ其移住ハ本年五月ヲ以テ舉行セントス
北部烏蘇利ノ鐵道線路ノ安全ヲ保持センカ爲メ西伯里鐵道會議ノ支出セル八萬六千留ヲ以テ后具加爾軍中ノ百五十家族ヲ移住セシ

メンコトヲ企圖セリ然レモ一時ニ家族全數ヲ運搬スルノ舟筏ヲ準備スルノ困難ナルト且ツ動員時機ニ際シ黑龍江邊行過ノ阻滯セルヲ以テ昨年中僅ニ五十八家族ヲ移住セシムルニ過キス又其後地方長官ノ申報ニヨレハ未移住九十二家族中唯六家族ノミ移住ヲ希望シ其他ハ既ニ移住ノ念ナシト是レ烏蘇利下流域ノ氣候風土共ニ惡劣ナル報聞ヲ得タルト同時ニ后具加爾地方ニ有益ナル鐵道工事ノ發現セルニ由ル者ナリ

第十一章 陸軍省一般ノ顧慮

○陸軍法令全書 昨年軍事參議會附屬ノ法令編輯部ハ陸軍法令全書第十五篇(衛生部務)及第二十篇(軍隊內部ノ經理)ノ二部ヲ發兌スルコトヲ準備ス
該第十五篇ハ第二版ニシテ更ニ第一版ヨリモ夥多ノ律令ト且軍隊付學校及修業部隊ニ關スル條令ヲ含有ス第二十篇ハ初メテ刊行セ

ラル者ナリ而ノ二部共ニ不日發布セラレントス
 千八百六十九年刊行ノ陸軍法令全書中ノ欠遺セル者總テ五部トス
 即チ第十九篇(軍隊給養)ハ既ニ編纂セラレタリト雖モ其一分ノ法令
 ハ廢停ニ屬スル者アリ、第九第十及第十一篇(悉ク哈薩克ニ關スル者)
 ハ早ク編述ヲ得目下委員會ノ校閲中ニ供セラル又第二十一篇(陸軍
 出納)ハ未タ刊行ニ付スルヲ得ス何トナレハ目下陸軍出納ニ關スル
 條規ハ帝國檢査院ノ審議ニ付シアルヲ以テ未タ既定法律タルヲ得
 サレハナリ

○退隱將校及遺族共濟資金 共濟資金ノ出納權衡ヲ失フノ原因之
 ヲ匡濟スルノ方法及千八百九十四年五月廿日ヲ以テ先帝ノ裁可ヲ
 經且昨年首ヨリ實行ノ効力アルヘキ該資金ノ新條令ニ關シテハ昨
 年ノ奏聞中ニ詳説セリ

新條令ハ該資金ノ歲入ヲ増加シ全時ニ歲出ヲ減却スルノ方法ヲ與

ヘタリト雖モ其影響僅ニ一局部ニ止ルヲ以テ該資金全般ノ財度ヲ
 復興スルヲ能ハス故ニ昨年ヨリ新條令ヲ實行セシモ毫モ效果ヲ奏
 スルヲナカリシ

共濟資金局ノ近況ハ全ク恐慌ニ沈メリ之レ資金局ハ順序アル膨脹
 ヲ要スルニ當リ却テ連年歲出超過ノ不幸ヲ見ルヲ以テナリ即チ昨
 年ノ決算ニ於テ其歲入ノ超過スルヲ五十七萬八千留ニシテ
 之ヲ補足スルカ爲メ其基本金ヲ流用セリ千八百九十三年七月二十
 八日ノ勅命ニ基ツキ政府ノ共濟資金局ヨリ徵收セル其歲入ノ百分
 ノ五并ニ同局ノ政府公債整理上ヨリ被ムル損耗ヲ再ヒ同局ニ還付
 センヲ國議院ニ提出セリ

國議院ハ此提議ヲ審理スルト全時ニ共濟資金局ノ財政困難ヲ救濟
 スルノ方法ヲ攻究シ而ノ之カ救濟策トシテ資金局參加人ノ受クヘ
 キ權限ノ修正及ヒ參加人ノ受クル救濟費ノ減却ノ如キハ實行ス可

ラサル者ナルヲ認め唯資金局財政ノ復興ハ國庫ノ補助ヲ受クルヨ
 リ他策ナキト示證セリ而ノ國庫ハ資金局ノ歳出超過ヲ擔保ス
 ルニ先チ大藏省ハ検査院ト共同シテ資金局ノ現狀ヲ審査シ然ル后
 結局ノ示定ヲ與フルトニ決議ス
 之カ爲メ國議院ハ其ノ意見ヲ提出スルヲ左ノ如シ
 一、將校共濟會ニ一時ニ其百分五ノ課税及千八百九十六年一月一日
 迄ノ公債整理上ヨリ被ル損金ノ還付トシテ二百七十二萬三千留ヲ
 支給スル
 二、同會ニ各年百分五課税及公債整理ノ損金ノ還付トシテ三十四萬
 一千留宛ヲ支給スル
 三、陸軍省ハ國庫ヨリ幾何ノ補助ヲ共濟會ニ與フヘキヤノ問題ニ對
 シ大藏省及検査院ト共同シテ共濟會ノ狀体ヲ審完シ其調査ノ結果
 ヲ國議院ニ回付スヘシ

臣ハ以上ノ事項ニ付本年一月十五日ヲ以テ裁可ヲ得タリ
 爾后陸軍省ハ共濟會ノ狀況審定ニ關スル諸般ノ統計及其他ノ報聞
 ヲ蒐集シ之ヲ第四回ノ共濟會監査會議ニ交付セントス而ノ將來共
 濟會ノ新條令案確定ノ秋ニハ其歳出超過ハ國庫ヨリ補助セラレヘ
 キ者トス然レモ新條令確定前ニ於テ調査材料ノ蒐集、計算ノ構成、新
 條令ノ立案、軍事參議會及國議院ノ新立案查定等ニ夥多ノ時日ヲ空
 過スルヲ以テ其間共濟會ハ各年歳出超過ノ厄運ニ遭ハサルヲ得ス
 而ノ該歳出超過ハ諸種ノ狀況上ヨリ連年増加スルノ傾キアリ茲ニ
 今后數年間ノ歳出超過ヲ豫測セハ左ノ如シ

千八百九十六年	七十五萬四千留
千八百九十七年	百十二萬四千留
千八百九十八年	百六十二萬留
千八百九十九年	二百十八萬六千留

但シ百分五課税、及公債整理ノ損耗
 還付ヲ得サレハ百十七萬四千留トス

故ニ此歲出超過ヲ補償スルカ爲メ共濟會資本金ノ流用ヲ避ケント
欲セハ新條令ノ發布ヲ待タスシテ國庫ノ補償ヲ仰カサルヲ得ス
臣
ハ此問題ニ關シ特ニ上奏ヲ奉リ陛下ノ親覽ニ達センコトヲ期ス
遺族ヲ安固ニ保濟スルノ目的ヲ以テ成ルヘク共濟會ニ入會ヲ勸誘
スルコトヲ調査スル委員會ハ昨年諸種ノ報聞ヲ蒐集シ此問題ヲ判決
センコトヲ用意ス

○陸軍定額 陸軍定額金ハ通常費及臨時費ヨリ成立ツ陸軍省ハ其
經費ヲ各部ニ配定スルニ當リ其定額ヲ超過セサルカ爲メ常ニ嚴密
ノ算當ヲ爲ス而シテ其内ノ小額ヲ以テ一時限リノ經費及新要
ニ充ンカ爲メ豫備費ヲ編成ス尙ホ又前諸年度ノ決算ノ結果ニヨリ
剩餘セル費額ハ悉ク豫備費中ニ算入ス而シテ此剩餘費額ハ特ニ豫備
費中ノ多額ヲ占ムル者ナリ
千八百九十五年ノ歲費ヲ配定スルニ際シ十四万三千留ヲ分テ豫備

費ト爲セリ此外千八百九十四年ノ野戰砲兵増加計畫案ニ要スル三
百十万三千留、千八百九十四年度ノ剩餘八百九十六万四千留、前諸年
度ノ繰越百五十八万三千留及不時ノ算入二十五万二千留ハ悉ク豫
備費中ニ加入スルヲ以テ該費ノ總計實ニ千四百四万四千留ニ達セ
リ

右ノ豫備費中ヨリ本報告年期ニ於テ千二百五十一万三千留ヲ支出
シ百五十三万千留ノ減額ヲ生セリ而シテ千八百九十五年ノ歲計剩
餘ハ次テ之ニ加入セラレヘキ者ニシテ其金額ハ年度決算期限后ニ
アラサレハ判明セサル者ナリ

前記豫備費ノ費消額ハ左ノ如ク使用セラレタリ

- 一、砲兵材料ノ準備及新設砲兵隊ノ馬匹購入ノ爲メ 四、四三八、〇〇〇
- 二、砲兵二大隊編成ヲ取ラシムルカ爲メ 三六一、〇〇〇
- 三、戰時用トシテ確保スヘキ豫備材料(物品、糧餉)

及衛生用具ヲ準備ノ爲メ
 一、九八六、〇〇〇
 四、電線、及雷工用物料ノ準備ノ爲メ、
 五四六、〇〇〇
 五、「ノウラゲラルギエウスキー」「スウエキボルグ」、
 浦鹽斯德并ニ「アムー、ダリヤ」河烏蘇里河及「スンガ
 チヤ」河用ノ船構造ノ爲メ
 二三八、〇〇〇
 六、家屋建築ノ爲メ
 二、二七一、〇〇〇
 七、配定經費ノ不足ヲ補充スル爲メ
 二八二、〇〇〇
 八、從前ノ拂渡ノ爲メ國庫ニ收納スル者
 二、〇九六、〇〇〇
 但シ六項ノ經費中ニハ兩砲兵士官學校屋舎及其野營ノ爲メ百七
 万三千留、「ツアルスコエセロ」市ニ於ケル陛下特別禁衛兵屋舎ノ爲
 メ、四十万五千留、近衛ユサノル騎兵聯隊ノ廐舎及病院ノ爲メ十萬
 留、「プレスト」市ニ於ケル兵營ノ爲メ十五萬留、及新設砲兵中隊兵營
 ノ爲メ十一萬四千留ヲ含有ス

右豫備費ノ配用ヲ一見セハ豫備費ハ前諸年ノ如ク特ニ一時ノ要
 求即チ砲兵編成ノ變更、戰時用物料及必要止ヲ得サルノ營舎建築
 等ニ充用セララル、者トス
 此外昨年陸軍省ノ爲メ別ニ總計千百八十四萬三千留ヲ支出セラ
 ル而シテ其内千九十五萬五千留ハ沿黑龍軍管ノ戰備増擴ノ爲メ(但シ全
 額悉ク使用セスシテ三百萬留ヲ殘留ス該三百萬留ハ本年西伯里諸
 軍管ノ増兵費七百萬留ニ繰込ル、者ナリ)五十萬留ハ「アムーダリヤ」
 河ノ橋梁建築ノ爲メ、十二萬三千留ハ「バミール」遠征ノ爲メ、七萬八千
 留ハ少將ワスマンドノ改良麵麴燒竈ノ報償ノ爲メ、五萬八千留ハ「モ
 ンテネグロ」侯國ノ教導大隊編成ノ爲メ五萬留ハ彼德堡ニ大將校
 集會所建築ノ爲メ、四萬七千留ハ「ブハアル」國公使接待ノ爲メ、三萬
 留ハ土耳其國內ニ前年ノ戰死者墓碑設立ノ爲メ及二萬留ハ特別禁
 衛隊ノ交代兵ノ賞與トス

本年ノ陸軍定額ハ左ノ如シ

陸軍經常費	二五九、七八三、二三七
携帶兵器新製費	二二、七〇〇、〇〇〇
后裏海鐵道經業費	六、〇三八、七三二
計	二八八、五二一、九七九

但シ經常費中ニ兵器新製費五、五一、一六八留ヲ含有ス

之レヲ前千八百九十五年ノ定額ト比較セハ左ノ如シ

經常費ノ増加スルヲ	一七、四〇二、二四九
携帶兵器新製費ノ減少スルヲ	二、一八六、一八七
后裏海鐵道經業費ノ増加スルヲ	一、二八八、三二六
差引増加額	一六、五〇四、三八八

陸軍經常費ノ増大スルハ連年逐次定額金ノ増加スルト豫算決定后新要求ノ生スルトニ職由ス即チ

一、千八百九十三年ニ決定スル定額ヨリ増加スルヲ

二、砲兵擴張計畫案ニ要スル者	三、〇〇〇、〇〇〇
三、西伯里諸軍管兵備擴張ノ爲メ	一、四九八、〇〇〇
四、豫備砲兵ノ編成ヲ更革スル爲メ	四、〇〇〇、〇〇〇
五、皇帝陛下ノ戴冠式ノ爲メ	二、一九四、〇〇〇
六、官吏共濟資金會ニ其百分五ノ課税及公價整理ノ損耗ノ償還ノ爲メ	二、六〇〇、〇〇〇
七、彼德堡ニ將校集會所ノ建築ノ爲メ	三、〇六四、〇〇〇
八、其他ノ小事件ノ爲メ及計算交換ノ爲メ	五七五、〇〇〇
九、金錢組替費ノ増加ノ爲メ	八九、〇〇〇
計	三八二、〇〇〇
携帶兵器新調費ノ減少スルハ主トシテ佛國製造所ニ小銃調達ヲ廢	一七、四〇二、〇〇〇

停スルニ由ル

后裏海鐵道經業費ノ増加スルハ「アムーダリー」河ノ橋梁建築及線路
運轉ノ増擴ノ爲メ百萬留ヲ支出スルニ由ル
各費目變更ノ必要アルハ臣ハ其理由ヲ審定シ之ヲ陛下ノ御覽ニ
達スルノ光榮ヲ有スル者ナリ

